

千歳市観光振興計画

空が結ぶまち千歳・水がつな繋ぐまち千歳

～豊かな自然（水・緑・温泉）と交通アクセスを生かした観光地づくり～



はじめに

千歳市は、国内主要都市や海外とも直結する世界に開かれた新千歳空港を擁する一方、支笏洞爺国立公園・支笏湖を始め、サケの遡上する清流千歳川や淡水魚の水族館「千歳サケのふるさと館」、102.3haの敷地に陸上競技場や野球場、テニスコート、多目的広場などを配する総合公園「青葉公園」のほか、多くの農産物直売所や観光農園が展開されるなど、多様な観光資源と交通の利便性を兼ね備えた道央圏の中核都市です。

こうした千歳市の特性や優位性を生かした魅力ある観光地づくりを進めるため、平成10年には千歳市観光基本計画を策定し、「周遊型観光の確立」、「都市機能の充実」、「観光の通年化」、「誘致宣伝・情報提供体制の強化」及び「ホスピタリティの醸成」の5つを基本目標に、魅力あふれる観光都市「千歳」の形成に向けて、多様な施策を総合的に展開してきました。

しかしながら、近年の環境意識の高まり、ICT（情報通信技術）の進展、観光のグローバル化によるアジア圏からの観光客の増加など、観光を取り巻く環境は大きく変化しており、これまでの取組に加えて、時代のニーズをとらえた更なる観光振興策の充実・展開が求められています。

このような環境の変化や今後の動向を踏まえ、地域が一体となり、観光による経済の活性化に取り組むための指針として、新たに『千歳市観光振興計画』を策定しました。

計画の基本コンセプトは、「空が結ぶまち千歳・水が繋ぐ^{つな}まち千歳～豊かな自然（水・緑・温泉）と交通アクセスを生かした観光地づくり～」としました。この基本コンセプトは、千歳観光の魅力伝えるメッセージであり、空路で結ばれた世界各地から多くの方が訪れ、支笏湖を源とする清流千歳川の流れに沿って、観光客が市内を回遊することへの期待を込めて設定したものです。

今後、千歳市では、計画の基本目標である「回遊性の向上と滞在時間の延長」を目指し、「支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信」、「観光資源の発掘と有効活用」、「観光まちづくりとおもてなし意識の向上」及び「魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施」の4つの柱に沿って施策展開していきますが、計画の実現には様々な事業者や市民の皆様との連携が必要不可欠です。地域の観光を支える皆様におかれましては、それぞれの立場からの積極的な取組と、千歳市に対するご支援とご協力をお願い申し上げます。

終わりに、この計画の策定に当たり、貴重なご提言をいただきました「千歳市観光振興基本計画策定懇話会」委員の皆様を始め、アンケートやヒアリングなどにご協力くださいました方々に心からお礼を申し上げます。

平成23年3月

千歳市長

千歳市観光振興計画

目 次

第1章 計画策定の趣旨	1
1. 計画の目的	1
2. 計画の位置付け	1
3. 計画の期間・範囲	1
4. 計画の点検・見直し	1
第2章 観光の動向	3
1. 国内における観光動向	3
(1) 観光を取り巻く社会情勢の変化	3
(2) 国内における観光客の推移	9
2. 千歳市の概況	14
(1) 自然条件、社会条件	14
(2) 観光に関連する環境の変化	18
3. 千歳市内の観光資源・施設の特徴	20
(1) 支笏湖地区の主な観光資源・施設	20
(2) 市街地地区の主な観光資源・施設	25
(3) 農村地区の主な観光資源・施設	30
4. 千歳市に関する観光の状況	31
(1) 千歳市全体の観光入込客数・宿泊客数	31
(2) 支笏湖地区の観光入込客数・宿泊客数	34
(3) 市街地地区の観光入込客数・宿泊客数	36
5. 千歳市を訪れた観光客に対するアンケート調査結果	38
(1) 観光施設利用者に対する調査結果	38
(2) 千歳市内宿泊者に対する調査結果	41

第3章 観光振興計画	47
1. 計画の体系	47
2. 観光振興に対する考え方とコンセプト・目標	48
(1) 観光振興に対する考え方	48
(2) 観光振興のサイクル	48
(3) 計画の基本コンセプト	49
(4) 計画の基本目標と施策の柱	49
(5) 計画の指標	50
(6) 計画の推進体制	50
3. 施策の展開	52
施策の柱1 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信	52
(1) 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと環境整備	53
(2) 千歳観光をけん引する支笏湖地区の効果的な情報発信	56
施策の柱2 観光資源の発掘と有効活用	57
(1) 観光資源の発掘と魅力増進	59
(2) 滞在メニューの充実	60
(3) 食の魅力づくり	62
(4) 市内外の観光資源を結ぶ観光ルート・コースづくり	63
施策の柱3 観光まちづくりとおもてなし意識の向上	65
(1) 観光案内機能の強化	67
(2) 民間事業者のサービス向上	68
(3) 市民のおもてなし意識の醸成	69
(4) 外国人観光客に対応した受入れ体制の整備	70
施策の柱4 魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施	71
(1) 情報提供ツールの整備	72
(2) 多様な手段による千歳観光のPR	73
4. 千歳市観光振興計画の施策一覧表	75
資料 千歳市観光振興基本計画策定懇話会	79

第1章 計画策定の趣旨

1. 計画の目的

「千歳市観光振興計画」は、千歳市が有する特性や優位性を生かした魅力ある観光地づくりを進めるため、千歳観光が抱える課題や、今後10年間の観光振興の基本的な方向性を内外に示し、観光関連機関・団体や民間事業者、市民の方々と連携しながら、観光振興による地域経済の活性化に取り組むための指針として策定したものです。

2. 計画の位置付け

この計画は、市政運営上の最上位計画である「千歳市第6期総合計画」の個別計画の一つであり、新たな総合計画の策定に併せて、昨今の観光を取り巻く環境の変化や今後の動向を踏まえ、平成10年施行の「千歳市観光基本計画」を全面的に改定した千歳市の観光分野における基本的な計画となります。

3. 計画の期間・範囲

この計画の期間は、平成23年度から平成32年度までの10年間とします。

計画の範囲は、千歳市全域を対象としていますが、広域観光については道内の市町村を含めています。

4. 計画の点検・見直し

千歳市観光振興計画に基づく各施策の実施に当たっては、10年の計画期間を前期と後期に分けて推進します。中間年（平成27年度～28年度）で進捗状況の把握等を行い、必要に応じて事業の再構築など計画内容の見直しを行うこととします。

第2章 観光の動向

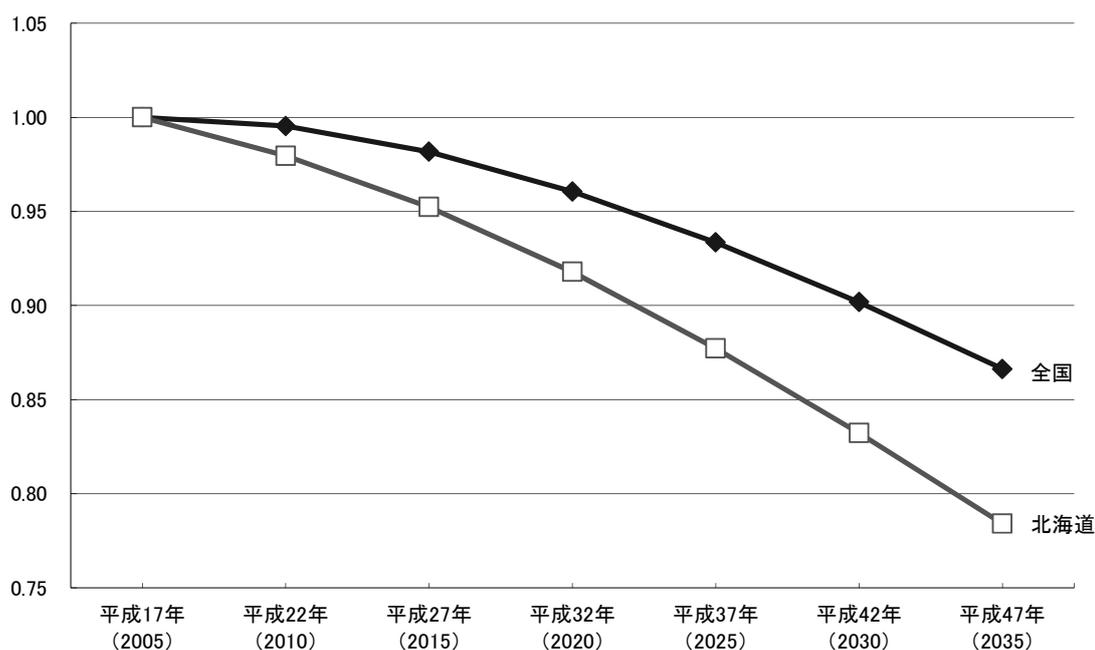
1. 国内における観光動向

(1) 観光を取り巻く社会情勢の変化

①国内人口の減少

国立社会保障・人口問題研究所が行っている将来人口の推計によると、全国と北海道の人口は平成17年以降減少し、平成32年（2020年）の推計人口は、全国が1億2,274万人（平成17年比96%）、北海道が517万人（平成17年比92%）となっています。さらに、平成47年（2035年）の推計人口は、全国が1億1,068万人（平成17年比87%）、北海道が441万人（平成17年比78%）となっており、全国及び北海道の人口は、今後大きく減少すると推計されています。

《平成17年の人口を1とした推計人口の推移》



資料：『日本の都道府県別将来推計人口（平成19年5月推計）』（国立社会保障・人口問題研究所）

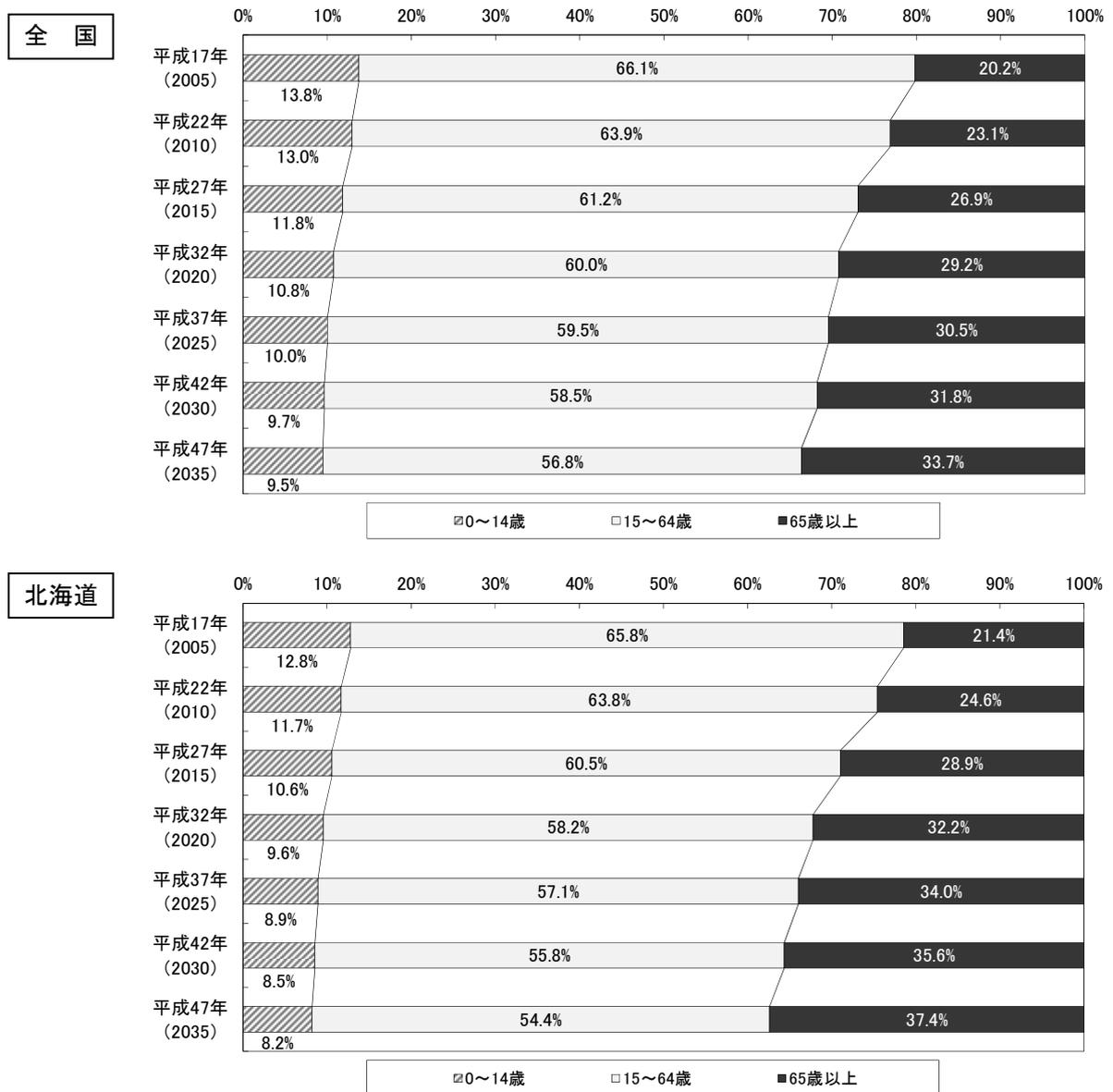
②少子高齢化の進展

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、人口の減少に加えて、少子高齢化の進展が明確に現れており、今後の観光に大きな影響を及ぼすことが予想されます。

年齢階層別の人口割合を見ると、全国については、「0～14歳」の割合が13.8%（平成17年）、10.8%（平成32年）、9.5%（平成47年）と減少しているのに対して、「65歳以上」の割合は、20.2%（平成17年）、29.2%（平成32年）、33.7%（平成47年）と増加の一途にあります。

北海道においても同様で、「0～14歳」の割合が12.8%（平成17年）、9.6%（平成32年）、8.2%（平成47年）と減少しているのに対して、「65歳以上」の割合は、21.4%（平成17年）、32.2%（平成32年）、37.4%（平成47年）と増加の一途にあります。

《全国と北海道の年齢階層別の人口割合（推計値）》



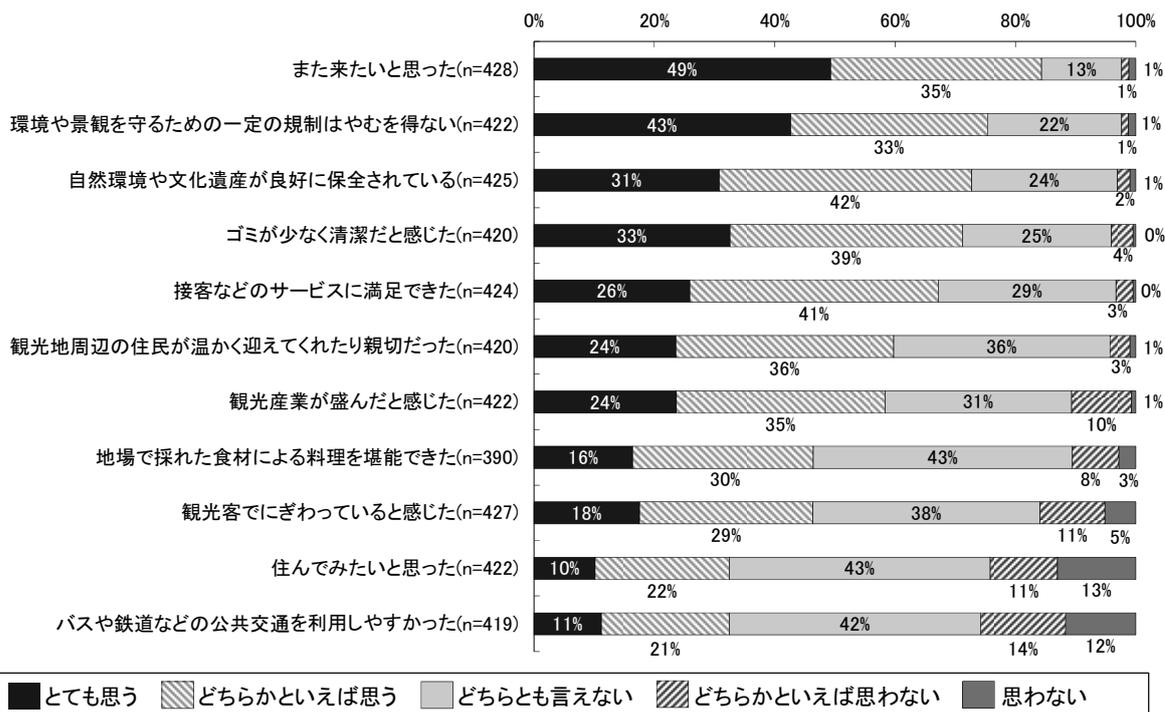
資料：『日本の都道府県別将来推計人口』（国立社会保障・人口問題研究所）

③環境意識の高まり

ここ数年、地球温暖化の議論や環境をテーマにした北海道洞爺湖サミット、COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）の開催などもあり、環境を巡る国民の意識は大いに高まっています。これまでは、環境や自然は無償の資源という意識が一般的でしたが、現在では、一度壊すと回復に長い時間が必要となり、良好な環境を保全するにはコストが掛かるという意識が浸透しつつあります。

「観光と環境に関する調査報告書」（国土交通省：平成20年2月）では、環境保全に関して先進的な取組を行う国内19か所*の観光地を訪れた観光客433人にアンケート調査を実施し、各観光地に対する感想を調査しています。その結果によると、観光地に対する感想としては、「また来たいと思った」という観光客が84%（「とても思う」と「どちらかといえば思う」の合計値）となっており、環境保全に先進的な取組を行っている地域が、観光地として観光客から高い評価を得ていることが分かります。また、約7割の観光客が、「自然環境や文化遺産が良好に保全されている」、「ゴミが少なく清潔だと感じた」と回答しており、観光地における環境保全の取組の成果が現れていることも伺えます。

《環境保全に先進的に取り組む観光地に対する感想》



<p>※調査地点 (19か所)</p>	<p>自然観光地：摩周湖（弟子屈町）、知床（斜里町）、綾の照葉樹林（宮崎県綾町） 温泉観光地：由布院（大分県由布市）、湯原温泉（岡山県真庭市）、草津温泉（群馬県草津町） 歴史観光地：石見銀山（島根県大田市）、松江城堀川（島根県松江市）、鎌倉市中心部のTDM（神奈川県鎌倉市）、白川郷（岐阜県白川村） 農山漁村観光地：蕪栗沼（宮城県大崎市）、バイオマスタウン構想（熊本県南阿蘇村）、勝山市エコミュージアム（福井県勝山市）、鳥羽の海と島（三重県鳥羽市） 都市観光地：響灘（福岡県北九州市） その他：コウノトリの郷公園周辺（兵庫県豊岡市）、葛巻町クリーンエネルギーのまち（岩手県葛巻町）、直島（香川県直島町）、水俣病学習・環境教育（熊本県水俣市）</p>
-------------------------	---

資料：『観光と環境に関する調査報告書』（国土交通省）

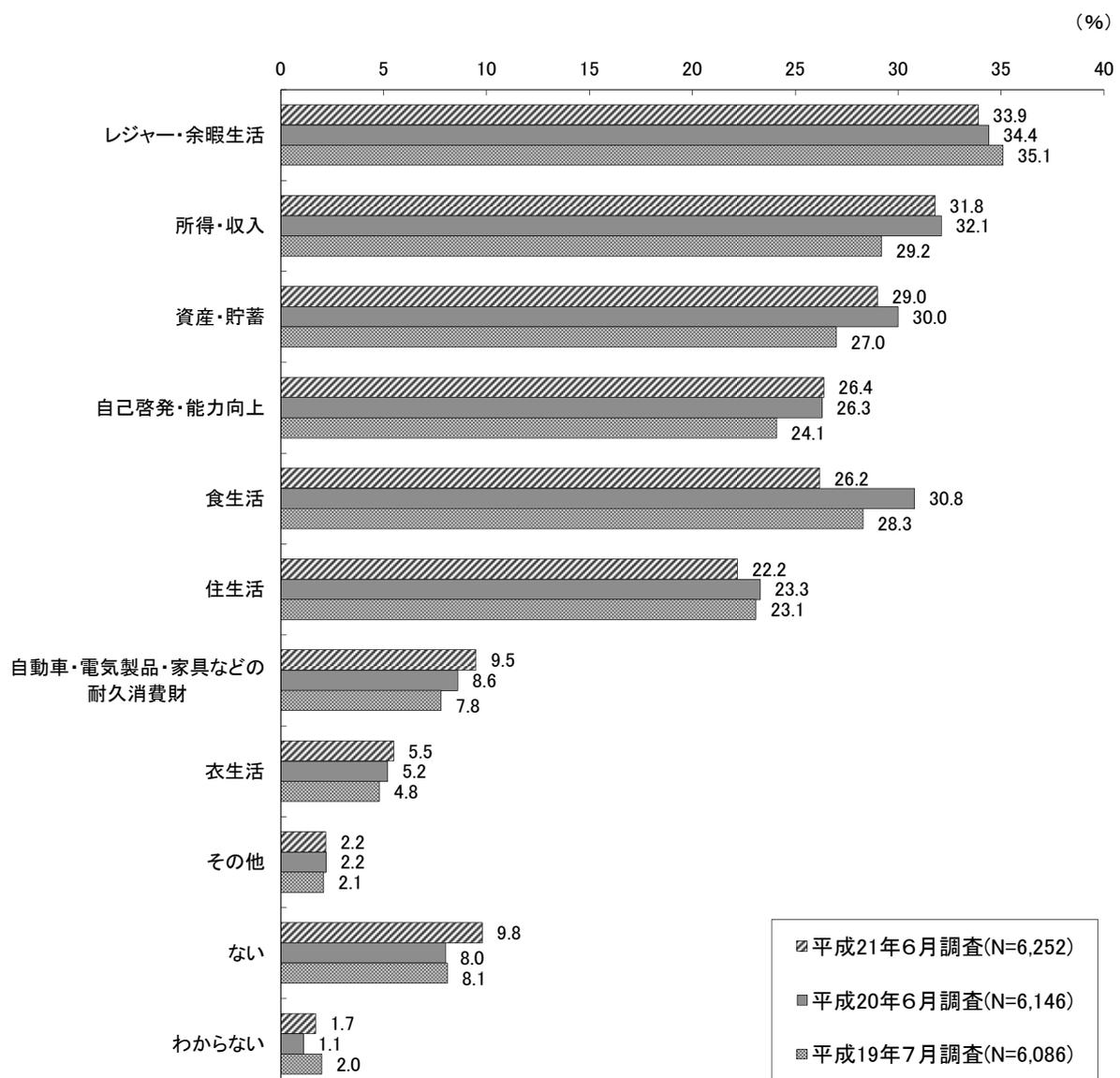
④ライフスタイルの変化

近年、国民の価値観の多様化が進み、ライフスタイルにも一人一人の個性が強く反映されています。人々の豊かさに対する考え方も、所得の向上や物質的な満足よりも、心のゆとりや生きがいといった、精神的な満足を求めるケースが多くなっています。

観光・レジャーは、未知の世界や人々との出会い、安らぎ、感動など、日常生活では味わい難い心の豊かさを実感できる機会となることから、人々の生活における観光の役割は、これまで以上に重要なものになっています。

内閣府が調査する「国民生活に関する世論調査」の結果を見ると、今後の生活で重点をおきたい分野の回答は「レジャー・余暇生活」が過去3年最も多くなっていますが、この割合は年々減少傾向にあります。

《今後の生活の力点（複数回答）》



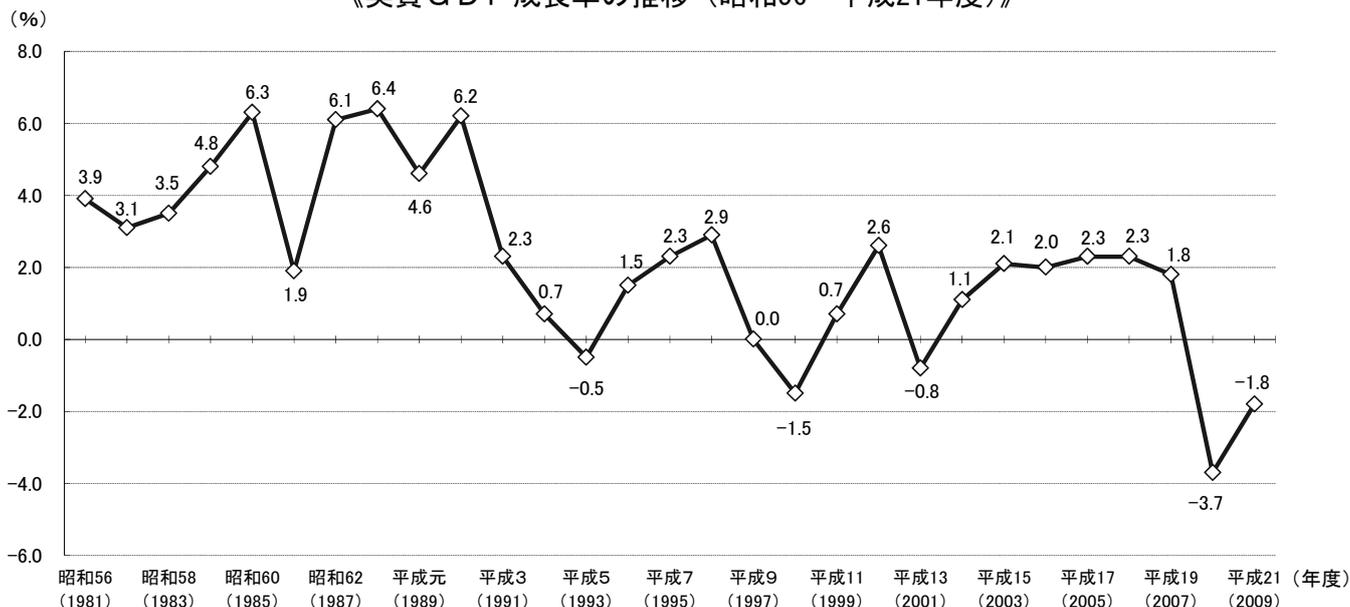
資料：『国民生活に関する世論調査』（内閣府）

⑤経済成長率の低下

日本の実質GDP（国内総生産）成長率の推移を見ると、平成2（1990）年度までは6%前後の成長率が続きましたが、平成3（1991）年度以降は成長率3%以下の低成長時代になりました。さらに、平成20（2008）年度と平成21（2009）年度は、世界的な金融不況の影響を受けてマイナス成長となっています。

このように、経済成長率が低い時代では、国民が余暇・レジャーに掛ける費用が低下することから、旅行者数の減少・旅行期間の短縮・消費額の低下など、観光関連事業者にとっても厳しい状況となっています。

《実質GDP成長率の推移（昭和56～平成21年度）》



資料：『国民経済計算確報』『四半期別GDP速報』（内閣府）

⑥情報発信の高度化

インターネットや携帯電話の普及など、観光に関連する情報発信技術の発展は目覚ましく、今後もより一層の高度化と、それに伴う新しい情報発信手段の誕生が予想されています。

インターネット技術については、通信速度の向上に伴って高精度な画像や動画が配信されるようになりました。また、セキュリティ技術の向上やシステム開発により、予約・購入・決済までをネット上で行えるようになりました。携帯電話を利用しても、同様のサービスを利用することができるようになっています。

さらに、ブログ・SNS*・ツイッターなどのサービスを利用することで、一般の人が手軽にネット上に情報発信できるようになりました。

※SNS： Social Networking Service (Site) の略。インターネット上で友人を紹介し合って、個人間の交流を支援するサービス（サイト）。誰でも参加できるものと、友人からの紹介がないと参加できないものがある。（『情報通信白書』（総務省）より）

⑦外国人観光客の誘致

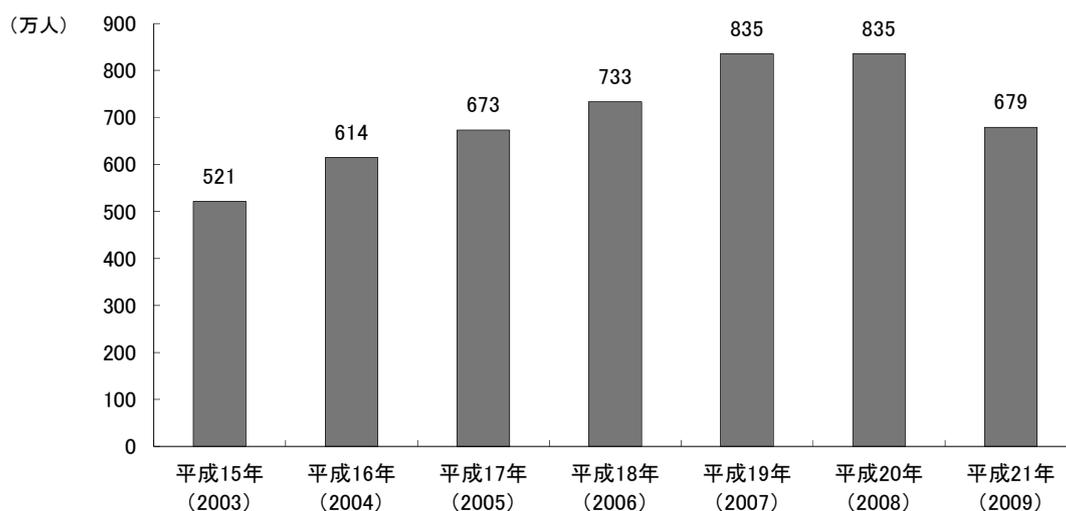
今後、日本の人口が減少していく中、地域活性化やビジネスの拡大を図るために、外国人観光客を呼び込むことが効果的であるとのことから、観光庁が中心になって訪日旅行促進事業（ビジット・ジャパン事業）に官民一体で取り組んでいます。

ビジット・ジャパン事業では、訪日外国人旅行者を将来的に3,000万人とすることを目指し、「訪日外国人3000万人プログラム」を設定しています。その第1期として、平成25年（2013年）までに1,500万人を目標に掲げ、中国を始めとする東アジア諸国（中国、韓国、台湾、香港）を当面の最重点市場と位置付けて、誘致宣伝活動を展開しています。

事業を開始した平成15年以降の訪日外客数^{※1}の推移を見ると、平成19年までは順調に増加してきましたが、世界的な金融不況の影響を受けた平成20年に増加が止まり、新型インフルエンザの感染拡大の影響を受けた平成21年では減少しています。

国では、訪日外客数を増加させるために、MICE^{※2}の開催・誘致の推進、魅力ある日本のおみやげの選定、通訳ガイド制度の制定、訪日外国人向けの観光案内基本マニュアルづくりなどの施策を展開しています。

《訪日外客数の推移（平成15～21年）》



資料：『訪日外客統計』（日本政府観光局：J N T O）

※1 訪日外客数： 国籍に基づく法務省集計による外国人正規入国者から日本に永住する外国人を除き、これに、日本を経由して第三国へ向かうため日本に一時的に入国した通過客（一時上陸客）を加えた入国外国人旅行者のことである。（日本政府観光局資料より）

※2 MICE： 企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、イベント、展示会・見本市（Event/Exhibition）の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。（観光庁ホームページより）

(2) 国内における観光客の推移

観光庁の「観光白書」では、旅行・観光消費動向や国内外における観光旅行の回数などの推移を整理しています。

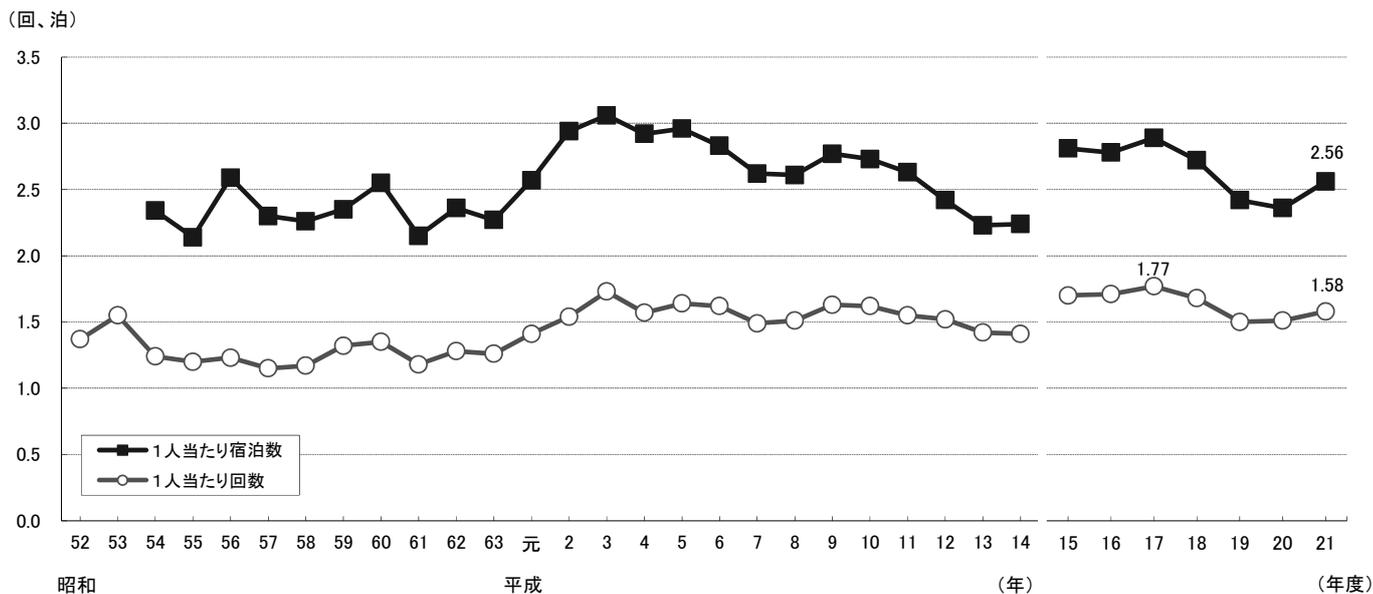
①国内宿泊観光旅行の推移

国民の国内宿泊観光旅行の推移を見ると、国民一人当たりの旅行回数、宿泊数共に平成3年をピークに減少傾向にあります。平成21年度は、前年に比べて若干増加し、国民一人当たりの国内宿泊観光旅行回数は1.58回・平均宿泊数が2.56泊となっています。これは、観光立国推進基本計画に定められた国民の国内観光旅行による一人当たりの宿泊数の目標（平成22年度までに年間4泊）に対して、約6割の水準にとどまっています。

平成15年度から平成21年度における宿泊を伴う国内観光旅行回数の推移を見ると、国民一人当たりで平成17年度に1.77回となったもののその後減少し、平成21年度には1.58回となっています。

一人当たりの宿泊観光旅行の回数・平均宿泊数は、平成21年度に若干回復しましたが、観光関連事業者にとって厳しい状況が続いています。

《国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移》

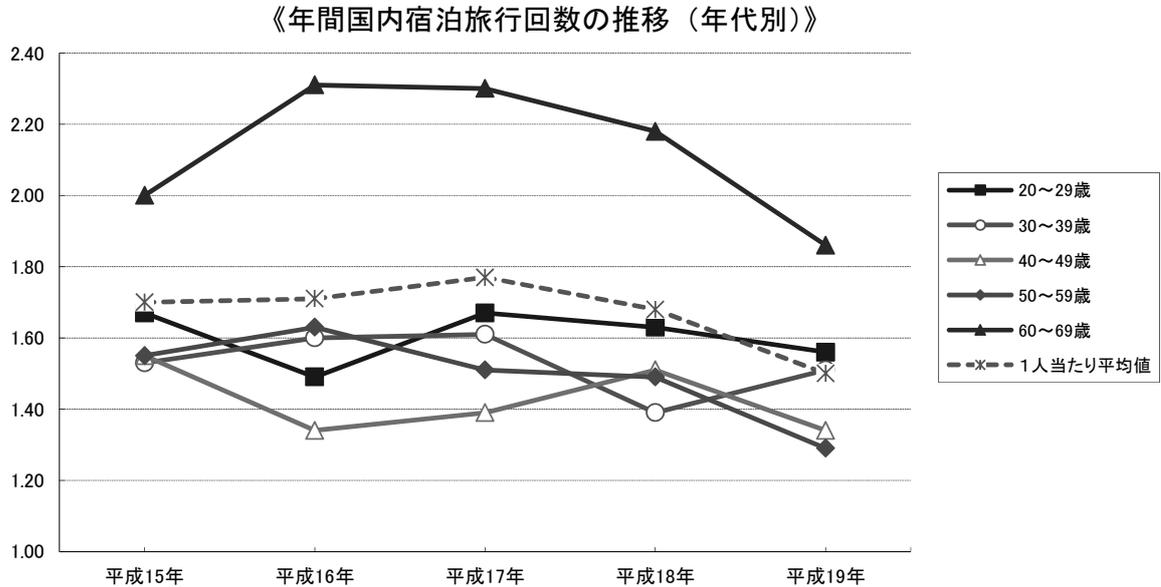


資料：『観光白書』『旅行・観光消費動向調査』（観光庁）

注：平成15年度から調査方法を変更し、国の承認統計として実施している「旅行・観光消費動向調査」の数値を採用しているため、それ以前との単純比較はできません。

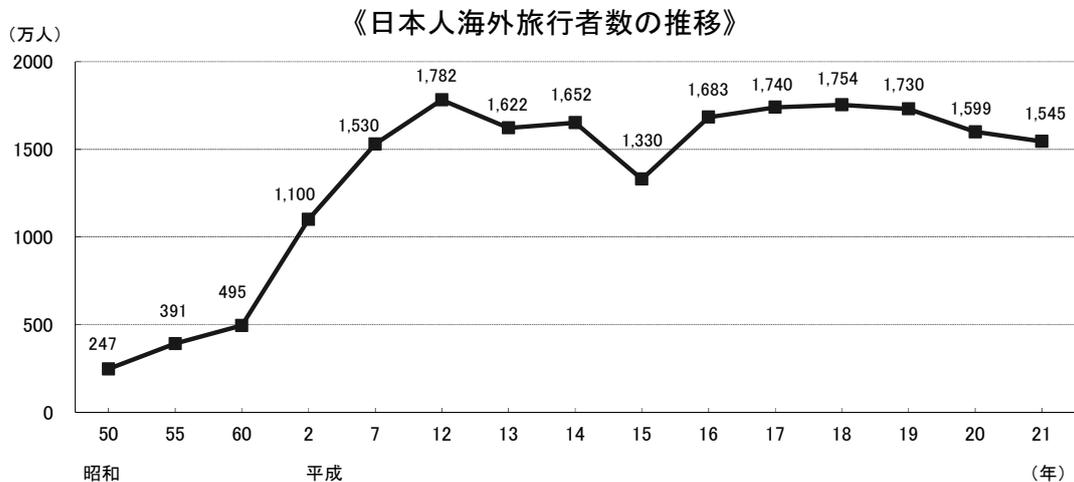
②年代別の国内宿泊旅行回数の推移

年代別の国内宿泊観光旅行回数（観光・レクリエーションを主目的とするもので、出張・業務や帰省・知人訪問とそれらを主目的とする兼観光は含まない。）を見ると、20歳代から50歳代までは、おおむね平均より低い水準にあります。60歳代は平均を常に上回り、平均回数をけん引してきましたが、平成19年に大きく落ち込んでいます。



③日本人の海外旅行の現状

日本人の海外旅行者数の推移を見ると、平成12年に過去最高となる約1,782万人を記録した後、同時多発テロ（平成13年）、SARSの発生（平成15年）等の影響により大きく落ち込んでいます。平成21年の海外旅行者数は、約1,545万人であり、観光立国推進基本計画に定められた目標（海外旅行者数を平成22年までに2,000万人）に対して、約8割の水準にとどまっています。



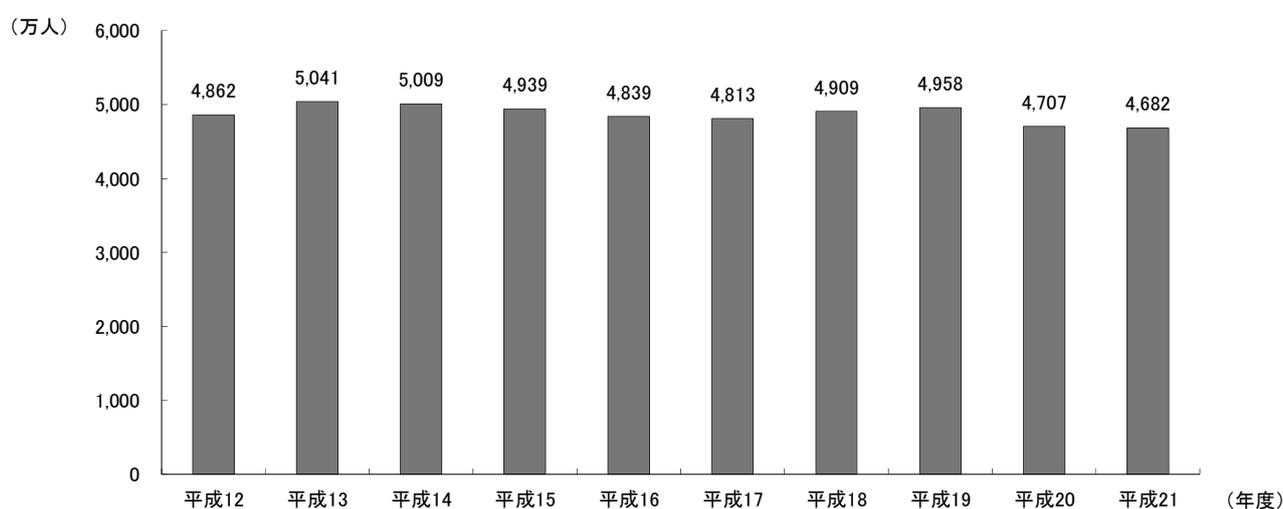
④北海道内における観光入込客数の推移

北海道観光入込客数調査によると、平成12年度以降の北海道の観光入込客数（実人数）は、年間5,000万人前後で推移しています。平成20年度以降は、ガソリン価格の高騰による出控え、景気の低迷、新型インフルエンザの流行などから観光客数が減少し、平成21年度では4,682万人となっています。このうち、道外客は597万人で対前年比4.9%減、道内客は4,085万人で対前年度比0.1%増となっています。

国内観光客が低迷を続ける中、訪日外国人来道者数は平成19年度まで増加を続け71.1万人まで増加しました。しかし、平成20年度以降は新型インフルエンザの流行、世界的な不況、円高などの悪条件が重なり減少に転じ、平成21年度は67.5万人となっています。

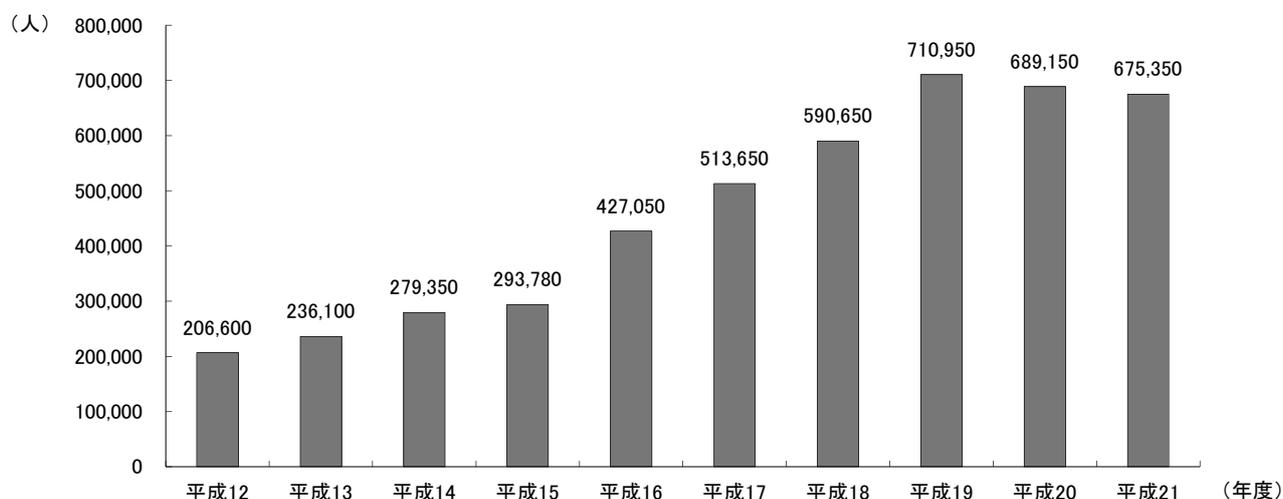
こうした中、中国からの観光客は、道東を舞台にした中国映画の大ヒットや一部富裕層への訪日個人観光ビザ解禁などの追い風もあり、対前年度比195.6%と大きく伸びています。

《北海道全体の観光入込客数（実人数）の推移》



資料：『北海道観光入込客数調査』（北海道）

《訪日外国人来道者数（実人数）の推移》



資料：『北海道観光入込客数調査』（北海道）

⑤北海道を訪れる観光客の動態

北海道経済部観光局が発行した「北海道観光の現況」（平成22年11月）では、来道観光客動態・満足度調査等の結果から、北海道を訪れる観光客の動態について次のように整理しています。

■属性～女性の割合が高く、年齢では50代・60代が多い

性別では、男性が43.4%・女性が55.3%で、女性の割合が10%以上大きくなっています。年齢別では50代・60代が多く、居住地別では関東が42%と最も多くなっています。

■旅行形態～家族旅行が半数を超えており、10人以上の団体は減少

家族旅行が50.9%で最も多く、次いで9人以下の小グループ旅行が23.9%となっています。一方、10人以上の団体旅行は徐々に減少しており、平成11年度の36.4%から平成19年度には10.9%となっています。

■旅行日程～2泊3日の行程が主流に

来道観光客の旅行日程は短縮化の傾向にあります。3泊4日の割合が、平成11年度の38.3%から平成19年度には26.4%減少しているのに対して、2泊3日は29.6%から46.1%に増加しています。

■来道経験～80%以上がリピーター

北海道を訪れる道外観光客のうち、約80%は過去に来道経験があるリピーターで、5回以上の来道経験を持つ「北海道ファン」も30%を超えています。

■旅行目的の多様化の進展

北海道観光の3大要素であった「自然観賞」「温泉・保養」「買い物・飲食」を目的とする旅行は徐々に減少し、際だって高い割合を示す旅行目的はみられなくなってきました。

一方、(財)日本交通公社がまとめた「旅行者動向2010」によると、自然や景勝地を見て回る「自然観光」やおいしいものを食べる「グルメ旅行」の旅行先としては、北海道が他を大きく引き離して一位となっており、「自然」や「食」は今後も北海道観光の大きな魅力となり続けると考えられます。

■パッケージツアーの利用～ルートの決まったパッケージツアー利用者の減少

パッケージツアーの利用状況を見ると、平成12年度には、来道観光客の42.8%がルートの決まったパッケージツアーを利用していましたが、平成19年度にはフリープランを利用する観光客の割合が大きくなっています。

また、パッケージツアーを利用しない観光客も37.5%と増加しています。

■交通手段～貸切（観光）バスが減少し、レンタカーと鉄道の割合が増加

北海道内における主な移動手段としては、「貸切(観光)バス」が28.7%と最も大きくなっていますが、その割合は減少しています。代わって、「レンタカー」「鉄道」の割合が増加しています。

■予約方法～50代以上は旅行会社利用、20代・30代ではネット利用も多い

北海道旅行の手配方法を見ると、50代以上の世代では、旅行会社への訪問と電話の割合が高くなっています。20代・30代では、ホテル・鉄道・航空会社やインターネット系旅行会社のホームページなどのインターネットを利用する割合が高くなっています。

■観光情報の入手～インターネットが大きく増加する一方、旅行会社は減少

旅行情報の入手先を見ると、「インターネット」が平成14年度の13.2%から平成19年度は23.5%と大幅に上昇しています。逆に「旅行会社」は、42.5%から25.7%と減少しています。

■観光消費額～道内客1世帯当たり・道外客一人当たりの観光消費額は減少

観光客が1回の観光行動で消費する金額を見ると、直近のデータでは道内客は1世帯当たり8,849円・道外客は一人当たり60,677円となっており、いずれも調査開始以来減少を続けています。

《観光消費額の推移》

回数	調査時期	道内客1世帯当たり	道外客一人当たり
第1回	昭和63年10月～平成元年9月	11,621円	68,358円
第2回	平成5年10月～平成6年9月	10,761円	62,005円
第3回	平成11年1月～平成11年12月	9,608円	61,007円
第4回	平成16年7月～平成17年6月	8,849円	60,677円

資料：『北海道観光産業経済効果調査』（北海道観光産業経済効果調査委員会）

2. 千歳市の概況

(1) 自然条件、社会条件

①千歳市の位置

千歳市は、北海道の中南部・石狩平野の南端に位置し、札幌市・恵庭市・苫小牧市・伊達市など4市・4町に隣接しています。

面積は594.95km²、市域は東西57.20km・南北30.40kmと東西に細長く、西高東低の地形を成しています。



②沿革

千歳の開庁は、明治13（1880）年、当時の千歳村に「千歳郡千歳村外5ヶ村戸長役場」が設置されたことに始まります。太平洋と日本海を河川ルートで結ぶ・シコツ越え（千歳越え）など古くから交通の要衝として栄えてきましたが、現在の交通拠点としての発展は、苗穂～沼ノ端間に北海道鉄道が開通した大正15（1926）年が契機となりました。

この年、当時の小樽新聞社が、鉄道開通を記念して千歳川のさけますふ化場見学会と観楓会を催すこととなり、同社は飛行機を飛ばして、客の到着に合わせ空から歓迎のビラをまくことを企画していました。

村ではせっかくなら着陸してほしいと要請、村民が2日間ほどで造成した1本の着陸場が千歳飛行場の基礎となりました。

その後、昭和14年（1939年）に日本海軍によって航空隊基地が開設され、人口の増加により昭和17（1942）年には町制が施行されました。

終戦後、昭和26（1951）年の米オクラホマ州兵第45師団駐留に伴うオクラホマ景気から町は急速に発展し、昭和30（1955）年前後には陸空自衛隊の駐屯地・基地が相次いで開設されるなど、自衛隊のまちとしての側面も有することとなりました。

昭和30年代になると、駐留米軍の撤退が始まり、市は雇用創出のため新産業都市の指定を受け、北海道で初めての市営工業団地を造成分譲するなど生産都市へと脱却を図りました。

千歳市第1・2工業団地を皮切りに、昭和47（1972）年に民間デベロッパー方式による千歳第3工業団地を造成し、翌年に分譲を終了しました。

さらに、空港を始め、港湾・JR・高速道路などの輸送ネットワークの優位性を発揮し

千歳臨空工業団地、千歳サイエンスパーク、千歳市第4工業団地、千歳市根志越業務団地、千歳美々ワールド、千歳流通業務団地、千歳オフィス・アルカディアの造成・分譲と続き、今では立地企業数が240社を超える工業都市として、確固たる地位を築いています。

北海道24番目の市として昭和33年（1958年）に市制が施行された千歳市は、人口の増加に対応した都市整備、新千歳空港周辺の整備や企業誘致など様々な側面からまちづくりを進め、北海道の交通拠点・産業都市へと、大きく変貌を遂げました。

③人口

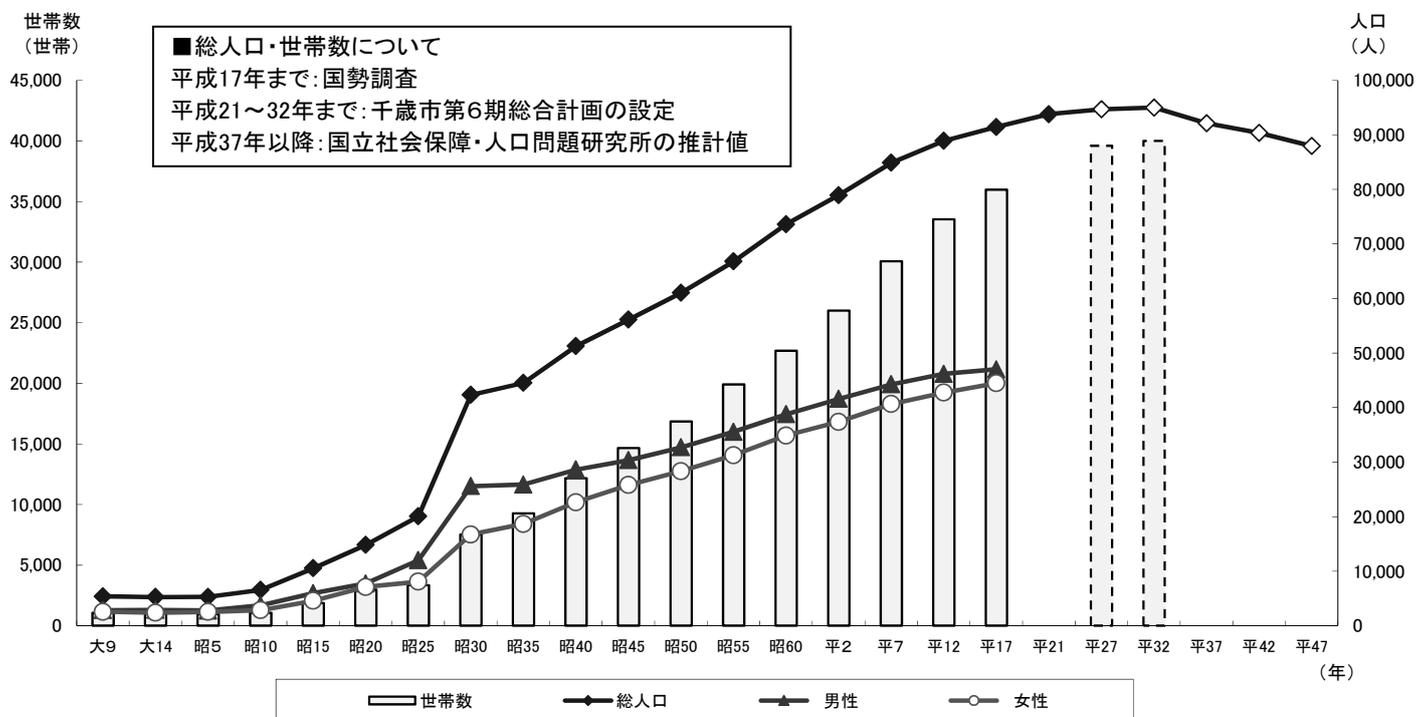
国勢調査における千歳市の人口は、昭和10年以降順調に増え続け、平成17年調査では人口91,437人となっており、平成12年調査と比べて2,540人・2.9%の増加となっています。

昼間人口は、96,531人で常住人口を5,000人以上上回っており、産業集積が進んでいることを裏付けています。また、従来から自衛隊員の人口が多く男女比率に偏りがありましたが、市の発展に伴いその差は縮小傾向にあります。

都市化の進展に伴い、人口集中地区の居住人口も調査年ごとに高くなっており、市街地への人口集中傾向が認められます。

将来人口について、千歳市第6期総合計画では、平成32年の人口を9.5万人に設定しています。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、平成47年の人口を、8.8万人としています。

《千歳市の世帯と人口の推移》



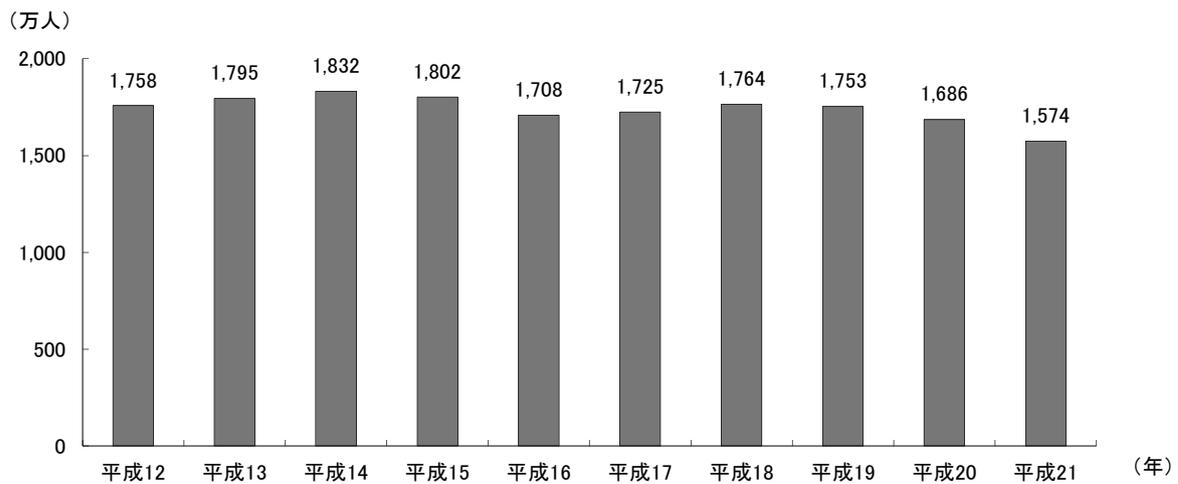
資料：『国勢調査』（総務省統計局）、『千歳市第6期総合計画』（千歳市）、
『日本の市町村別将来推計人口（平成20年12月推計）』（国立社会保障・人口問題研究所）

④交通

新千歳空港は、2本の3,000m滑走路を有する北海道における国際航空の拠点であり、国内における基幹空港であります。平成6年には日本初の24時間空港として運用を開始し、平成22年3月26日には国際線専用のターミナルビルが運用を開始しています。平成23年2月現在の路線数は、国内線29路線・国際線11路線が就航しています。

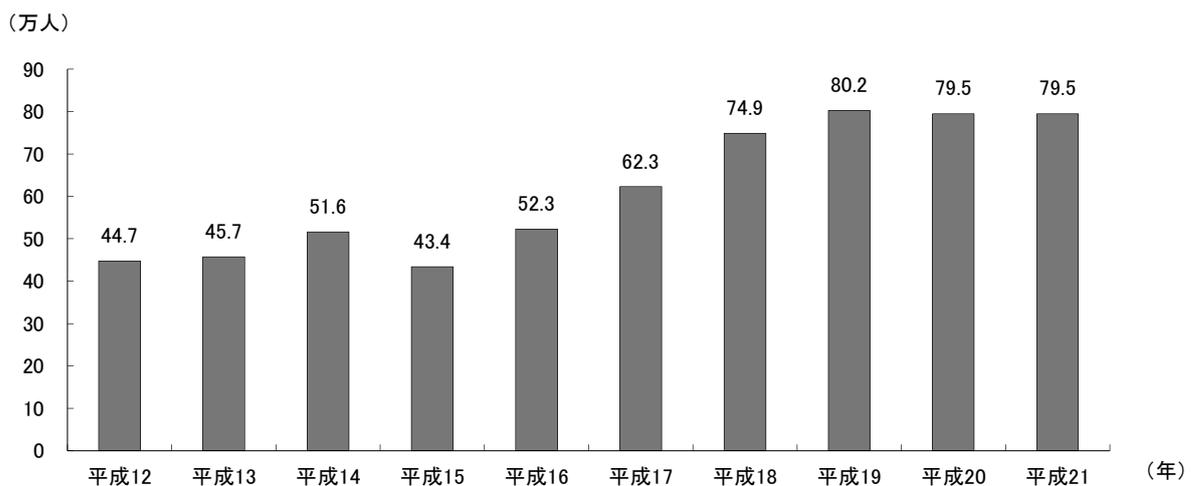
平成21年の乗降客数は、国内線・国際線を合わせて約1,654万人となっています。景気低迷や新型インフルエンザなどの影響により、対前年比で112万人・6.3%減と2年連続の減少となりましたが、秋以降は増加傾向にあり、今後も成長が著しいアジアを中心に、利用者の増加が見込まれています。

《国内線乗降客数の推移》



資料：『空港管理状況調書』（国土交通省）

《国際線乗降客数の推移》



資料：『空港管理状況調書』（国土交通省）

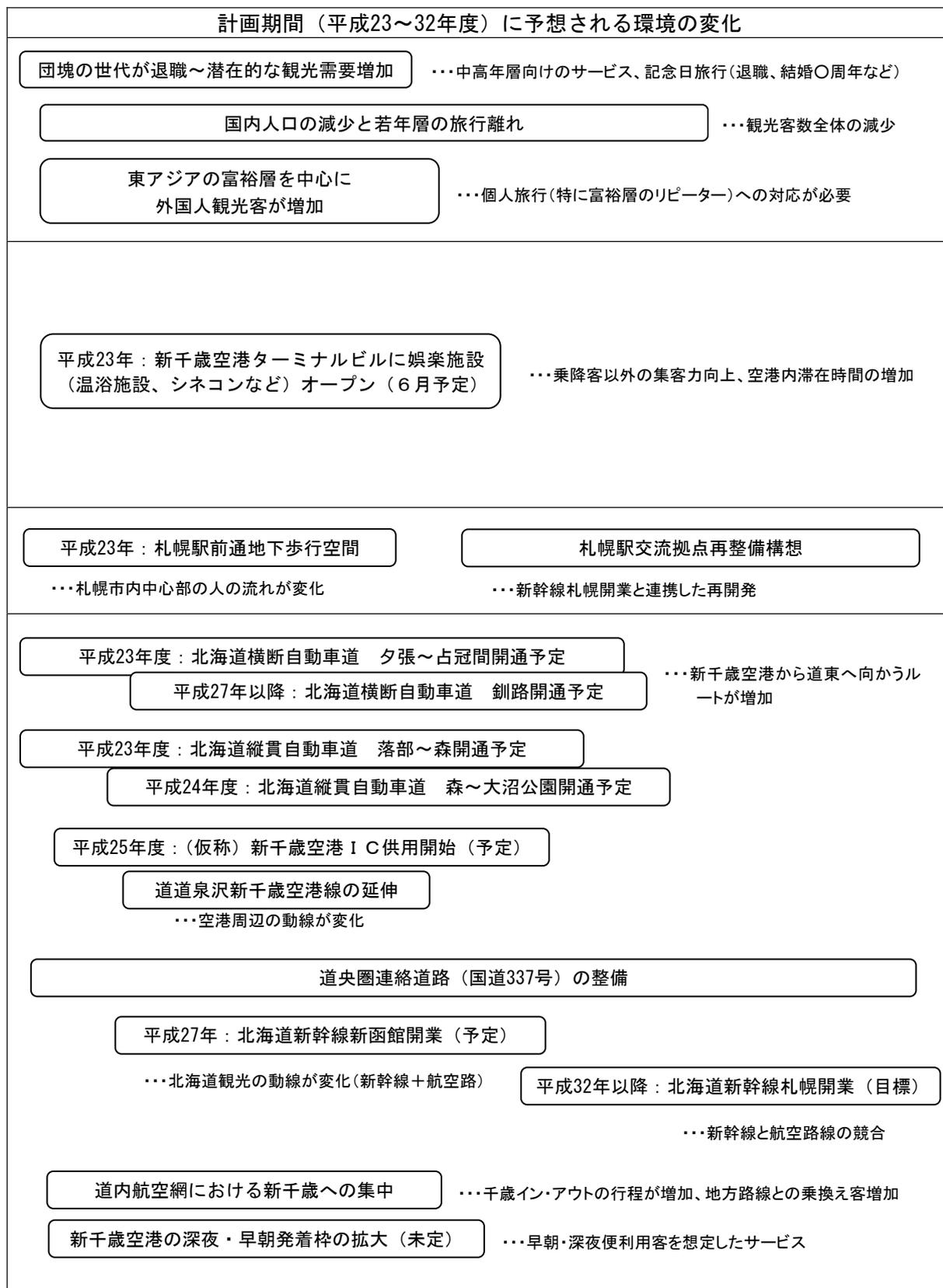
都市間輸送を担う J R 千歳線は、市街地において高架化された J R 北海道の最大幹線で、空港連絡鉄道としての性格を有しています。新千歳空港ターミナルビルの地下に列車が乗り入れる千歳線支線・新千歳空港駅は「鉄空一貫」の連携した旅客輸送を行っています。

道路は、道央道（北海道縦貫自動車道）及び道東道（北海道横断自動車道）の高速道路を始め、国道 6 路線・道道 12 路線が集積しています。新千歳空港から東部地区を抜けて石狩湾新港につながる道央圏連絡道路は、道東道まで完成供用され東千歳 I C との連結が向上し、さらに、平成 25 年度には道央道と道道 泉沢新千歳空港線の交差部に（仮称）新千歳空港 I C の供用が予定されています。

(2) 観光に関連する環境の変化

観光に関連する環境の変化について、千歳市とその周辺地域に起きた出来事と、今後10年間に予想される変化を整理すると、以下のようになります。

	ここ数年の出来事（平成22年度まで）
観光客に関する動向	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道洞爺湖サミットの開催（平成20年度） ・外国人観光客の増加 （北海道全体では過去10年間で約3倍に）
千歳市内の施設に関する動き	<ul style="list-style-type: none"> ・支笏湖温泉街に高級路線の宿泊施設が開業 支笏湖第一寶亭留翠山亭:平成14年 支笏湖温泉レイクサイドVILLA翠明閣:平成20年 しこつ湖鶴雅リゾートスパ水の詩:平成21年 ・支笏湖温泉街の整備 （支笏湖ビジターセンター、親水護岸、駐車場など） ・千歳アウトレットモール・レラ開業（平成17年）・増床（平成19年）、千歳マッスルパーク（平成22年）
周辺地域の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・「さっぽろ広域観光圏」観光圏整備実施計画認定（平成21年4月） ・三井アウトレットパーク札幌北広島開業（平成22年4月） ・・・千歳アウトレットモール・レラとの競合
交通機関に関する動き	<p>【道路】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路料金改定（ETC休日割引、社会実験による一部無料化） ・道央圏連絡道路の寿ランプ～中央ランプ間開通（平成22年12月） ・・・新千歳空港周辺と農村地区の移動がスムーズに <p>【空港】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新千歳空港新国際線ターミナルビル供用開始（平成22年3月） ・中国・ロシア便の就航規制（曜日規制）緩和（平成22年3月） ・JALの地方路線撤退、縮小（平成22年3月以降） ・A-netが丘珠空港撤退、新千歳に路線集約（平成22年7月） ・羽田空港D滑走路供用開始による発着枠拡大（平成22年10月） ・羽田空港国際線ターミナルビルの供用開始（平成22年10月）



3. 千歳市内の観光資源・施設の特徴

千歳市内の観光地は、支笏湖地区・市街地地区・農村地区の大きく3つに分かれています。



(1) 支笏湖地区の主な観光資源・施設

支笏湖地区は、支笏湖を中心とした自然景観と温泉に恵まれたエリアです。



①支笏湖



(写真上) 支笏湖の風景

(写真下) チップ釣りの様子

支笏湖は、支笏洞爺国立公園に属するカルデラ湖で、新千歳空港や札幌市中心部の近くに位置しています。最大水深360m・平均水深265mは、国内では秋田県の田沢湖に次いで2番目の深度を誇ります。また、水質においても、平成17・19～21年度の公共用水域水質測定で最も水質の良い湖として評価されています。湖の中を見ることが出来る遊覧船からは、柱状節理など国内屈指の透明度を誇る支笏湖ならではの水中景観を楽しめます。

支笏湖に生息するヒメマスは、「チップ」の愛称で親しまれ、平成8年に市の魚として指定されています。毎年6～8月のチップ釣りは初夏の風物詩であり、ヒメマスは重要な観光資源にもなっています。

支笏湖では、この特産品のヒメマスや国内最大級のブラウトラウトなどの釣りを楽しめるほか、温泉宿泊施設、ロケーションに恵まれた3つの趣の異なるキャンプ場、苔の洞門、樽前山や恵庭岳などの1,000m級の山々が周辺にあり、これらの資源を活用した自然体験メニューを、財団法人自然公園財団や支笏湖温泉旅館組合などが展開しています。

毎年1月下旬から2月中旬にかけては、支笏湖の湖水を噴霧し制作した氷像が幻想的な雰囲気を出す「千歳・支笏湖氷濤まつり」^{ひょうとう}が開催されています。

平成18年度からは、動力船の乗り入れが規制されており、豊かな自然に加えて静かな佇まいも貴重な財産となっています。

②温泉



・支笏湖温泉は、支笏湖の東岸に位置し温泉宿泊施設や飲食店、土産物屋が集積する温泉街です。近年は、高級路線の温泉宿にリニューアルする施設が多くなっています。

・丸駒温泉は、支笏湖の北西岸、恵庭岳の麓に位置する温泉です。大正4年創業の源泉かけ流しの老舗旅館があり、支笏湖とつながっている天然露天風呂の湯面は、湖の水位と連動しています。

・いとう温泉は、支笏湖の北西岸、恵庭岳の麓に位置する温泉です。源泉かけ流しの温泉宿が1か所あり、その露

天風呂は、支笏湖と岩1枚で隔てた野趣あふれる造りとなっています。

③キャンプ場



(写真) 美笛キャンプ場

支笏湖周辺には、美笛キャンプ場、モラップキャンプ場、オコタン野営場と3つのキャンプ場があります。

- ・美笛キャンプ場は、支笏湖の南西岸に位置するキャンプ場です。周辺には樹齢300年以上のカツラ、ミズナラ、シナノキなどの大木からなる「巨木の森」が広がっています。
- ・モラップキャンプ場は、支笏湖の南東岸に位置するキャンプ場です。場内には砂浜が広がり、車椅子対応の水洗トイレが完備されているなど、家族連れに適したキャンプ場です。
- ・オコタン野営場は、支笏湖の北西岸に位置するキャンプ場です。ミズナラやイタヤカエデ、トドマツなどの森林に囲まれ、原始的な自然を残しています。

④苔の洞門



「苔の洞門」は、風不死岳の麓にある枯れた峡谷にエビゴケ、チョウチンゴケ、オオホウキゴケなど約30種のこけがむした景勝地です。樽前山の噴火によって流れ出た溶岩が、沢水等により浸食されてできた回廊状の地形で、第1洞門（420m）と第2洞門（770m）に分かれており、高さ最大10mに及ぶ切り立った岩肌に、ビロードで覆われたかのようなこけが生えています。

現在、岩盤崩落の危険があるため、内部への立入りは禁止されていますが、洞門入口の観覧台から見学できます。

⑤支笏湖周辺の山々（恵庭岳、風不死岳、樽前山、紋別岳）



(写真) 樽前山の山頂

- ・恵庭岳（標高1,320m）は、昭和47年の札幌オリンピック冬季大会の滑降競技会場になった、支笏湖西岸に高くそびえる円錐型火山です。山頂からは、支笏湖全景や日高山系、石狩平野などが見渡せますが、現在、落石などの危険があるため第2見晴台（8合目と9合目の間）より上は立入禁止となっています。
- ・風不死岳（標高1,102m）は、山頂近くまでトドマツやエゾマツ、落葉広葉樹を交える森林に覆われています。

樽前山7合目ヒュッテから風不死岳登山口へ通じる道には、通称「お花畑」が広がっています。また、山頂からは支笏湖の美しい青色や、樽前山、羊蹄山やニセコの山々などが望めます。

- ・樽前山（標高1,041m）は、世界的にも珍しい溶岩ドームの活火山です。比較的短時間で山頂まで行くことが可能で、活火山の様相や高山植物を見ることができ、眺望が良いことなどから多くの登山者が訪れています。なお、外輪山の内側の火口原への立入りは禁止されています。
- ・紋別岳（標高866m）は、湖畔から最も近い山で比較的短時間で登ることができます。山頂からの眺めも良く、支笏湖や樽前山、風不死岳、恵庭岳のほか、千歳・苫小牧・札幌市街が望めます。

⑥美笛の滝



美笛の滝は、落差50m以上の高さから階段状の岩肌を白糸のように水が流れ落ちる趣のある滝です。春のヤマザクラや夏の深緑、秋の紅葉と季節ごとの風情が楽しめます。

⑦山線鉄橋



湖畔温泉街近くの千歳川河口に架かる一本の鉄橋は通称「山線鉄橋」と呼ばれ、記念撮影のポイントになっています。

明治41（1908）年、王子製紙が千歳川に第一発電所を建設するための物資運搬用に苫小牧から軽便鉄道（山線）を走らせた際に架けたもので、当初は木製でしたが大正12（1923）年に鉄橋に架け替えられました。

昭和26年（1951）には、道路交通網の急速な発達により輸送手段がトラック等に移り変わりこの山線も廃止されましたが、その後もこの鉄橋は道路橋・歩道橋として長年利用されてきました。当時を偲ぶ唯一の名残しのとなっています。

現在のものは、平成9年に修復工事を行い再生されたもので、平成19年に経済産業省の近代産業遺産に認定されています。

⑧オコタンペ湖（特別保護地区）



北海道三大秘湖の一つであるオコタンペ湖は、原生林に抱かれ、天候や見る角度・時間によって、湖水の色がエメラルドグリーンやコバルトブルーなどに変化して見えます。

オコタンペ湖周辺は、森林生態系保護地域に指定されており、立入りは禁止されていますが、展望台から見学できます。

⑨支笏湖ビジターセンター



支笏湖ビジターセンターは、支笏湖の自然を親しみやすく展示した施設で、支笏湖地区の観光案内所としての役割も担っています。

館内では、火山活動の様子や支笏湖周辺に生息する動植物の生態、湖の中の世界などを、模型や大型写真などにより魅力的に紹介しています。

また、支笏湖周辺の散策や野鳥観察などの自然観察会を実施しています。

⑩支笏湖のイベント



支笏湖では、春の「湖水開き」、夏の「湖水まつり」、秋の「紅葉まつり」、冬の「氷^{ひょうとう}濤まつり」と季節ごとにイベントを実施しています。

- ・支笏湖湖水開きでは、安全祈願祭のほか、遊覧船の割引運航と日帰り温泉の半額開放を行っています。
- ・支笏湖湖水まつりでは、2日間の日程でステージイベントや湖上打上げ花火大会を行っています。
- ・支笏湖紅葉まつりでは、支笏湖の特産品であるヒメマスを使った味覚汁を主に、農産物の販売や縁日などを行っています。また、遊覧船の割引運航と日帰り温泉の半額開放も行っています。
- ・千歳・支笏湖氷^{ひょうとう}濤まつりでは、支笏湖の湖水を噴霧して制作した氷像を約2週間にわたり公開しています。期間中は、各種ステージイベントや花火大会なども行っています。会場では、甘酒やそば・うどんなどを販売する売店も設けられています。

(写真上) 支笏湖湖水まつり

(写真中) 支笏湖紅葉まつり

(写真下) 千歳・支笏湖氷^{ひょうとう}濤まつり

(2) 市街地地区の主な観光資源・施設

市街地地区は、新千歳空港やアウトレットモール、淡水魚の水族館、サケの捕魚車（通称インディアン水車）、工場見学など多様な観光資源・施設が点在したエリアです。



①新千歳空港



(写真上) ターミナルビル外観
(写真下) 同ビルセンタープラザ

国内有数の規模を誇る新千歳空港は、航空機への搭乗や見送りだけでなく、飲食・買物を楽しむことができる魅力的な施設です。

空港ターミナルビル内には、飲食店やショッピング施設のほか、展望デッキ、ちとせ・大空の夢ミュージアム、キッズパーク、アクアリウム（水槽）、空港内アートなど、訪れた人たちを楽しませる仕掛けがそろっています。

さらに、平成22年3月に国際線旅客ターミナルビルが新たにオープンしたほか、国内線ターミナルビルの増築も行われています。

②アウトレットモール



国内外のショップが集積した道内初のアウトレットモールで、日本初・北海道初進出のショップも多数出店しています。ファッションアイテムだけでなく、スポーツやアウトドア、インテリアなど多彩なラインナップのブランドを365日アウトレットプライスで楽しむことができます。

南千歳駅に隣接しているとともに新千歳空港からも近く、交通の便がよいアウトレットモールとして、札幌近郊だけでなく道外や海外からの観光客が訪れています。

また、平成22年7月に、子供から大人まで楽しめる屋内型スポーツテーマパークが併設されました。

③千歳サケのふるさと館



千歳サケのふるさと館は、淡水魚としては国内最大級の水槽を有する水族館で、サケ（平成8年11月1日市の魚に指定）と北方圏の様々な淡水魚の生態を観察することができます。館内には、サケやその仲間たちが展示されており、サケの一生を紹介するサーモンムービーがワイドマルチビジョンで上映されています。

また、千歳川の中の様子を見ることができる水中観察室では、四季折々の生き物や、秋の遡上時期には産卵に向かうサケの群れを見ることができます。

④インディアン水車



インディアン水車は、国内でも珍しい水力のみで稼働する捕魚車（遡上するサケを捕獲するための設備）です。その歴史は、後に北海道庁初代水産課長となった伊藤一隆が、明治19（1886）年に研修のためアメリカに渡った際、西海岸のコロンビア川で見た捕魚車の設計図を持ち帰り日本に伝えたことに始まります。

この捕魚車が千歳川に初めて設置されたのは明治29年（1896年）11月で、その後改良が重ねられて現在の形になっています。サケの遡上時期（8月下旬から12月上旬）に設置され、水車でサケを捕獲する光景は、千歳の秋の風物詩として親しまれ、毎年大勢の見学者が訪れています。

⑤工場見学



(写真上) ビール工場
(写真下) ワイナリー

千歳市内では、ビール工場やワイン醸造所、しょうゆ工場など、数多くの工場が見学可能となっています。

- ・ビール工場では、ビールの製造から出荷までの工程の見学と、出来立てのビールを試飲できるブルワリーツアーを実施しています。
- ・ワイン醸造所では、特産品のハスカップを使ったワイン等を製造しており、試飲や製造している蔵を見学することができます。
- ・しょうゆの製造工程などを見学できる工場では、しょうゆ造りを体験する、小学生向けの見学コースも用意されています。

⑥名水ふれあい公園



(写真上) 浄水場管理棟
(写真下) 名水ふれあい公園

名水ふれあい公園は、内別川（水道水源）の源となるナイベツ川湧水の「名水百選」認定を記念して造られた公園です。園内には内別川を観察できる散策路や、湧水の噴出口をイメージした水道水の水くみ場が設置されています。

また、隣接する浄水場管理棟の1階には、千歳に初めて降り立った飛行機「北海」第1号機の模型が展示されています。

⑦ゴルフ場



千歳市には6か所のゴルフ場があり、海外・国内のプロゴルファーが参加する各種トーナメント会場にもなっている、充実した環境が整っています。

全てのコースが新千歳空港から車で15～30分圏内にあり、札幌市内からも1時間～1時間20分程度と、交通アクセスも優れています。また、価格帯もセルフコースからキャディ付きコースまで、多様なニーズに対応できます。

⑧青葉公園



千歳市中心部に位置する青葉公園は、総面積102.3haを擁する道内屈指の自然豊かな総合公園で、平成12年に市民が適正に利用・活用しながら保全する地区として、市条例に基づく第2種自然環境保全地区に指定されています。

公園内には図書館やピクニック広場、なかよし広場、テニスコート、陸上競技場、野球場、多目的広場など、17施設が整備されています。

園内には豊かな緑に囲まれた散策路があり、散歩やジョギング、冬には歩くスキーのコースとして多くの市民などに利用されています。

⑨市街地のイベント



- ・千歳 J A L 国際マラソンは、原生林に囲まれた森林コースを走るマラソン大会で、フル・ハーフ・10km・3km・3km親子マラソン競技及び団体戦が開催されます。毎年、国内外から1万人を超える参加があります。
- ・スカイ・ビア&YOSAKOI祭では、飲食ブースが出展し、4大ビールメーカーのビールや地ビールなどを味わうことができます。また、全道から集結したYOSAKOIチームによるトーナメント及びパレードのほか、空路交流都市によるPRステージや野外コンサートなど各種ステージイベントを行っています。
- ・千歳基地航空祭は、航空自衛隊千歳基地を会場に、各種装備品や自衛隊機等の展示のほか、ブルーインパルスによる曲技飛行なども行われ、全国から航空ファンが集まるイベントです。天候などにも左右されますが、多い年には12万人を超える来場があります。
- ・インディアン水車まつりは、千歳川とサケとインディアン水車をテーマに「千歳の秋を楽しむ」をモットーにしたイベントです。道の駅サーモンパーク千歳を会場に、サケ鍋やイクラ弁当の販売のほか、ヤマメの釣堀や各種ステージ行事が行われています。

(写真上から)

千歳 J A L 国際マラソン

スカイ・ビア&YOSAKOI祭

千歳基地航空祭

インディアン水車まつり

⑩清流千歳川



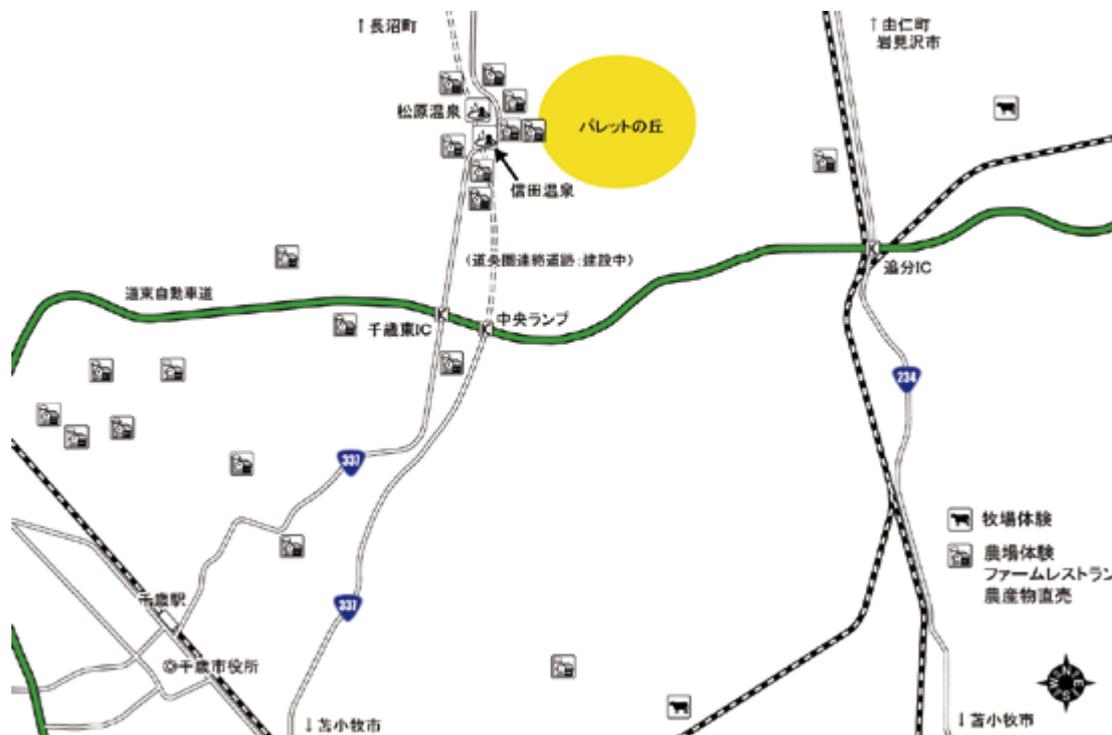
千歳川は支笏湖から流れ出る唯一の川で、市街地を貫流し日本海に注ぐサケの遡上する一級河川です。その上流域の一部は、平成12・15年に厳格に保護・保存する地区として、市条例に基づく第1種自然環境保全地区に指定されています。

毎年7月から8月にかけては、キンポウゲ科の水生植物で、ウメに似た白い花を咲かす「チトセバイカモ」の見頃を迎えます。また、釣りやラフティング、カヌーのスポットにもなっています。

千歳川沿いには、散策に適した遊歩道が設置されています。

(3) 農村地区の主な観光資源・施設

千歳市東部に広がる農村地帯は、2か所の温泉施設と数多くの農場やファームレストラン・直売所が点在し、パレットの丘に代表される農村景観を楽しめるエリアです。札幌市や新千歳空港から近く、高速道路などの交通条件も整っており、今後、都市との交流進展が期待されています。



①パレットの丘



パレットの丘は、国道337号から東丘へ抜ける途中の幌加地区にある波状丘陵地帯を指します。緑肥用として植えられたヒマワリが黄色く咲き誇り、黄金色の小麦や、ビートの緑の葉と相まって、美しいコントラストを形成する秋に見頃を迎えます。

②観光農園



農村地区には牧場が多数あり、搾乳や乳製品づくりなどの酪農体験ができます。

また、イチゴやハスカップ、トウモロコシなどの収穫体験、ひまわりの迷路、ドライフラワー講習、そば打ちなどを楽しむこともできます。

③ファームレストラン・直売所

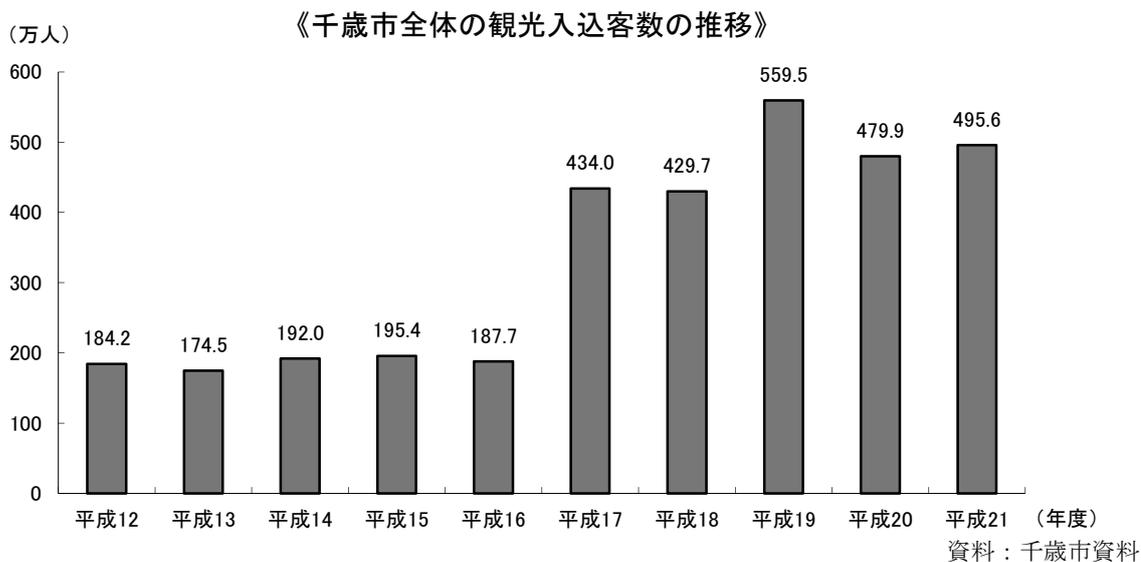
農村地区には、地元産の旬の食材を生かした料理や、地元野菜・果物・牛乳を原材料にしたアイスクリームなどを提供するレストランが点在しています。また、季節の野菜や米、そばなどを販売する直売所も多い地域です。

4. 千歳市に関する観光の状況

(1) 千歳市全体の観光入込客数・宿泊客数

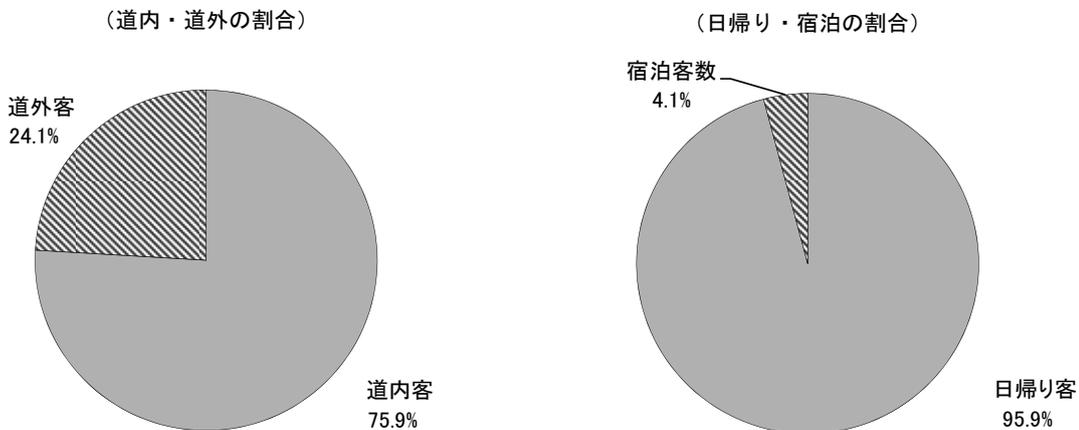
①千歳市全体の観光入込客数～道内からの日帰り客が中心

千歳市全体の観光入込客数は、平成16年度までは200万人弱で推移してきましたが、平成17年4月に南千歳駅隣接地にアウトレットモールが開業したことから大きく増加し、400万人を超えるようになりました。平成19年度には559.5万人まで増加しましたが、その後減少し、平成21年度は495.6万人となっています。



平成21年度の観光入込客数を道内客・道外客別に見ると、道内客が75.9%を占めています。また、日帰り客は95.9%となっており、千歳市は道内からの日帰り客が中心の観光地であることが伺えます。

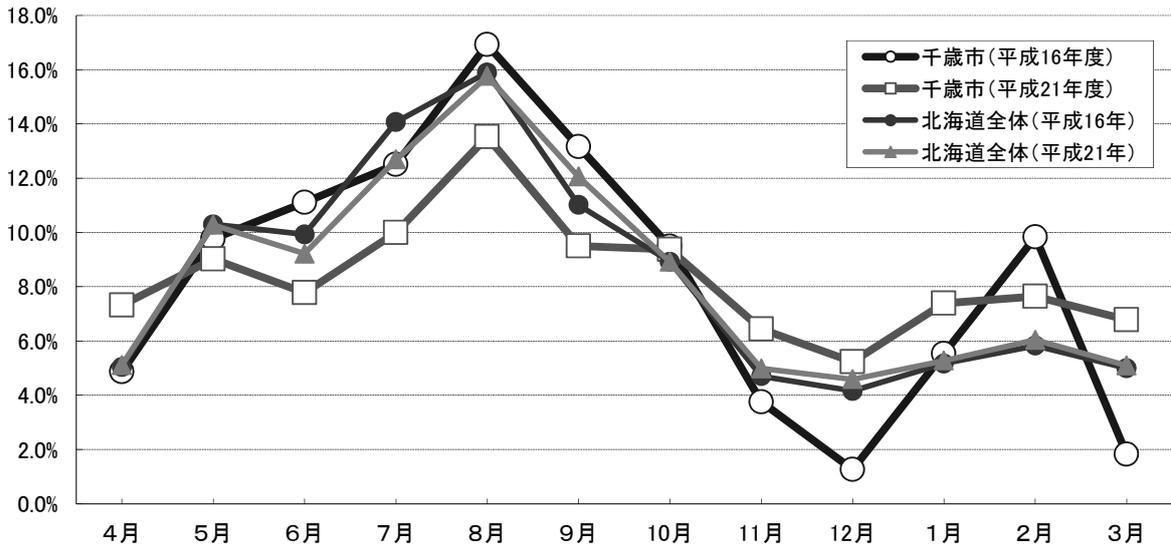
《千歳市全体における、道内・道外、日帰り・宿泊の割合：平成21年度》



②千歳市全体の観光入込客数の季節変動～季節変動は平準化の傾向

千歳市の月別観光入込客数について、アウトレットモール開業前の平成16年度と平成21年度の月別割合を比較すると、開業前は夏期に観光客が集中し、氷濤まつりが行われる2月を除く冬期には大きく落ち込んでいましたが、開業後は毎月の入込みが比較的平準化してきていることが分かります。

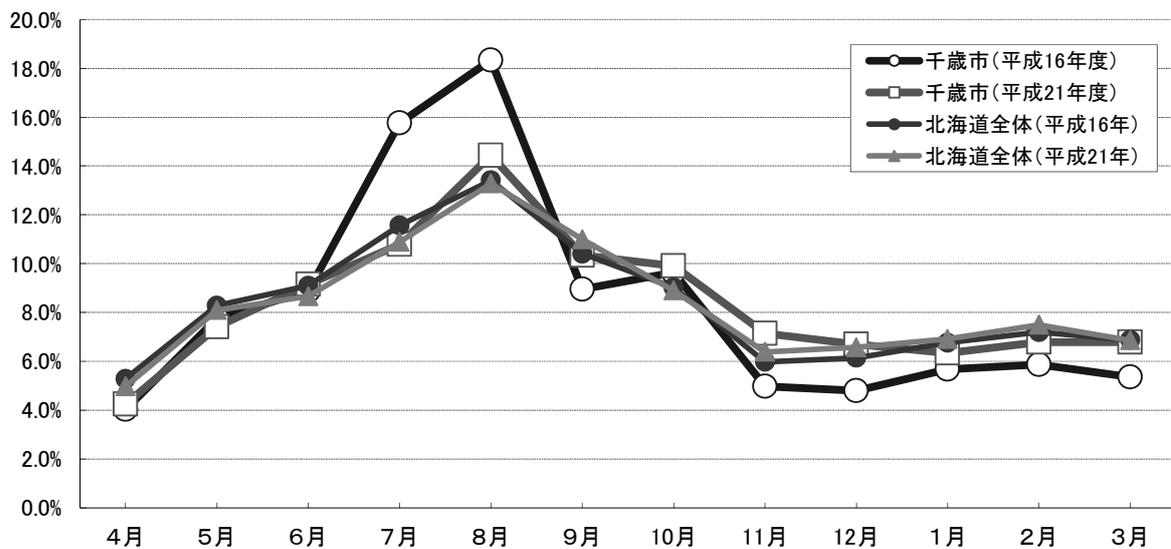
《月別観光入込客数の変化（年間合計に対する割合）》



資料：千歳市資料、『北海道観光入込客数調査』（北海道）

同様に、月別の宿泊客延べ数を比較すると、夏期に集中する傾向は変わっていませんが、秋～春（11月～3月）の宿泊者の割合が増加しています。

《月別宿泊客延べ数の変化（年間合計に対する割合）》

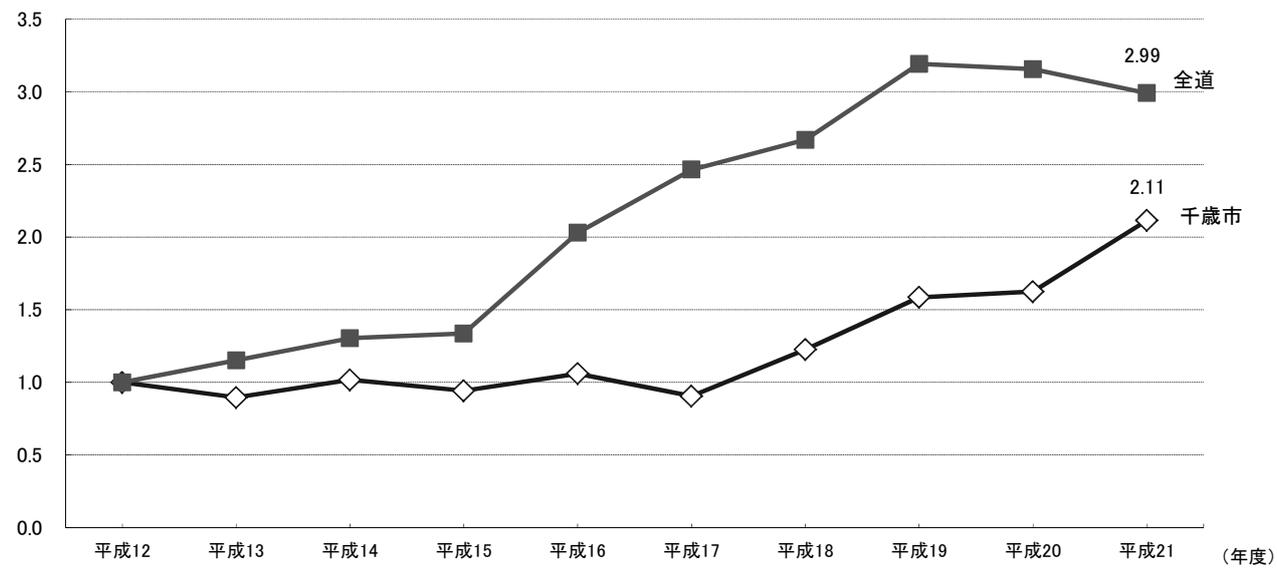


資料：千歳市資料、『北海道観光入込客数調査』（北海道）

③外国人宿泊客の状況～全道の伸び率よりは低いものの、中国人の増加が顕著

千歳市に宿泊した外国人宿泊客延べ数は、直近の平成21年度で年間44,059人となっており、平成12年度と比較して2.11倍に伸びています。道内における外国人観光客数は、その間に約3倍の伸びとなっており、千歳市の伸び率を大きく上回っています。

《外国人宿泊客延べ数の推移～千歳市と全道の比較》
(平成12年度を1とした場合)



資料：『北海道観光入込客数調査』（北海道）

平成21年度の外国人宿泊客延べ数を国・地域別に見ると、「中国」が12,078人で最も多く、次いで「シンガポール」の7,793人、「アメリカ」の6,582人と続いています。

外国人宿泊客延べ数について、平成16年度と平成21年度を比較すると、中国が9.47倍、オーストラリアが3.16倍、韓国が2.57倍、シンガポールが2.55倍と増えているのに対して、平成16年度に最も多かった台湾は7割以上の減少となっています。

《千歳市における外国人宿泊客延べ数：国・地域別集計》

(単位：人)

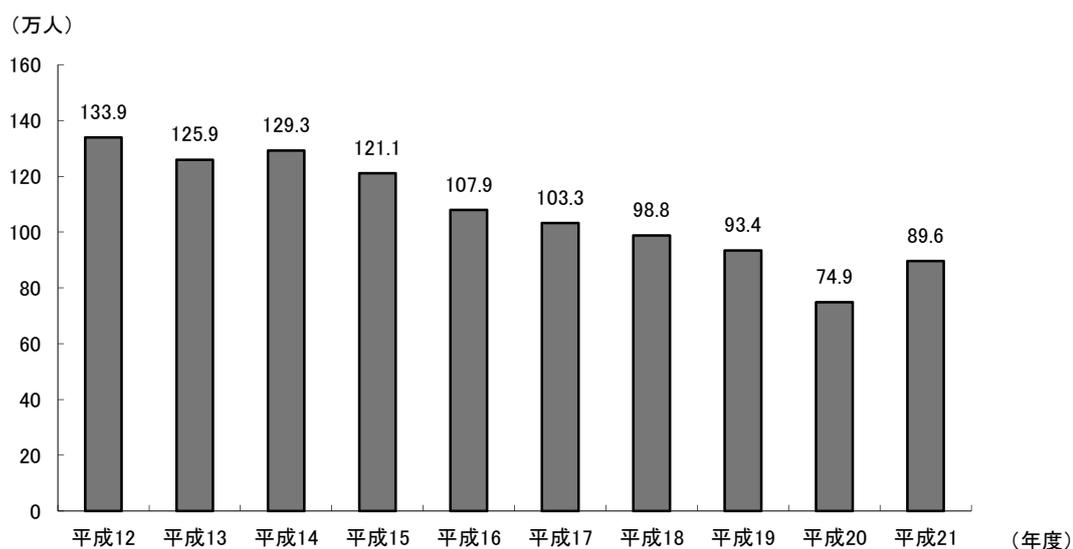
国・地域 年度	アジア					ヨーロッパ	アメリカ	オーストラリア	その他 不明	計
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール					
平成16	1,276	1,134	6,183	2,999	3,062	1,213	4,254	518	1,461	22,100
平成17	2,084	577	4,973	1,999	2,948	1,259	2,319	622	2,091	18,872
平成18	1,853	1,970	3,393	1,631	3,081	1,771	2,043	629	9,173	25,544
平成19	3,964	2,521	2,703	1,265	10,937	2,011	2,512	997	6,144	33,054
平成20	5,868	2,006	2,274	1,755	7,775	1,929	4,221	1,008	7,030	33,866
平成21	12,078	2,912	1,402	1,775	7,793	1,884	6,582	1,638	7,995	44,059

資料：千歳市資料

(2) 支笏湖地区の観光入込客数・宿泊客数～支笏湖は減少傾向・道外客と宿泊客は増加

支笏湖地区の観光入込客数は減少傾向にあり、特に、平成20年度はサミット開催に伴う警備強化や景気の低迷などが原因となり、74.9万人まで減少しました。平成21年度は、温泉宿泊施設のオープンやイベント参加者の増加などもあり、対前年度比で14.7万人・19.71%増となっています。

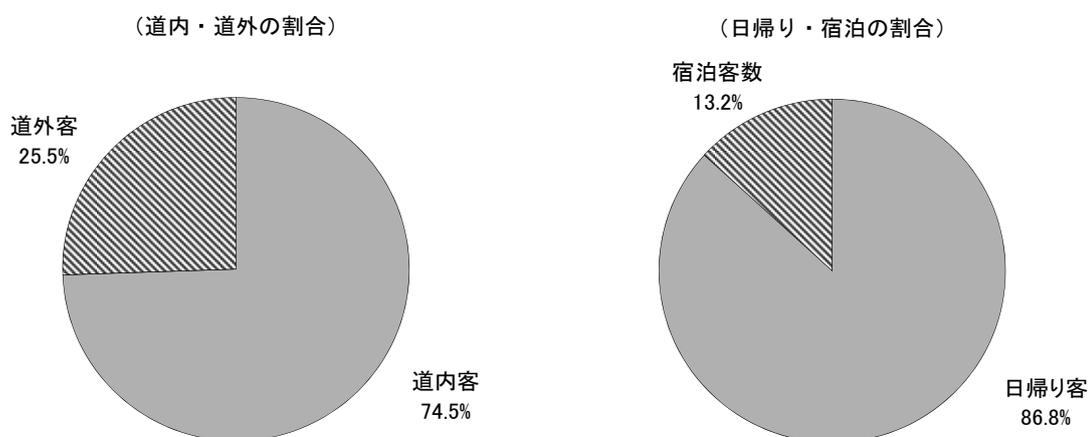
《支笏湖地区の観光入込客数の推移》



資料：千歳市資料

平成21年度の観光入込客数を道内客・道外客別に見ると、道内客が74.5%を占めています。また、日帰り客は86.8%となっており、支笏湖地区においても道内からの日帰り客が中心となっています。

《支笏湖地区における、道内・道外、日帰り・宿泊の割合：平成21年度》

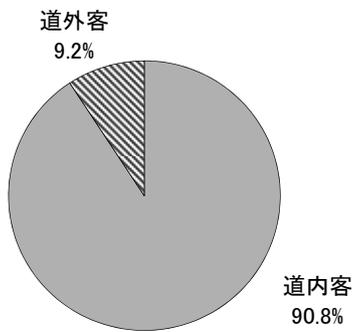


資料：千歳市資料

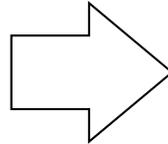
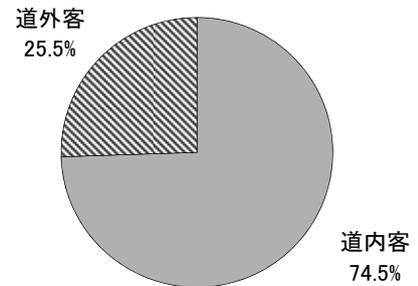
過去10年間における道内・道外客の割合と日帰り・宿泊客の割合の変化を見ると、道外客・宿泊客の割合がそれぞれ増加しています。

《支笏湖地区における道内・道外の割合、日帰り・宿泊の割合の変化》

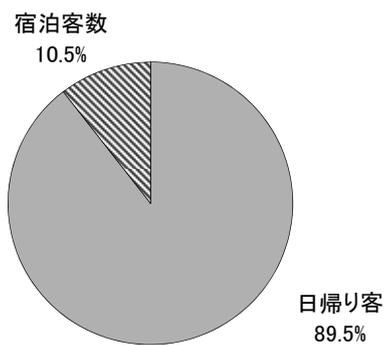
道内・道外の割合（平成12年度）



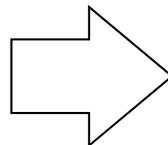
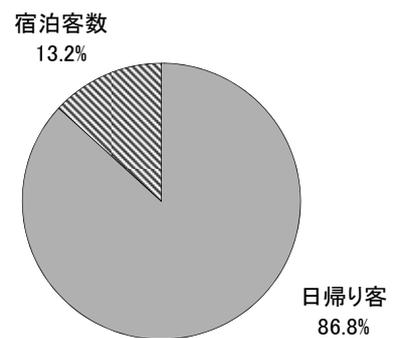
道内・道外の割合（平成21年度）



日帰り・宿泊の割合（平成12年度）



日帰り・宿泊の割合（平成21年度）

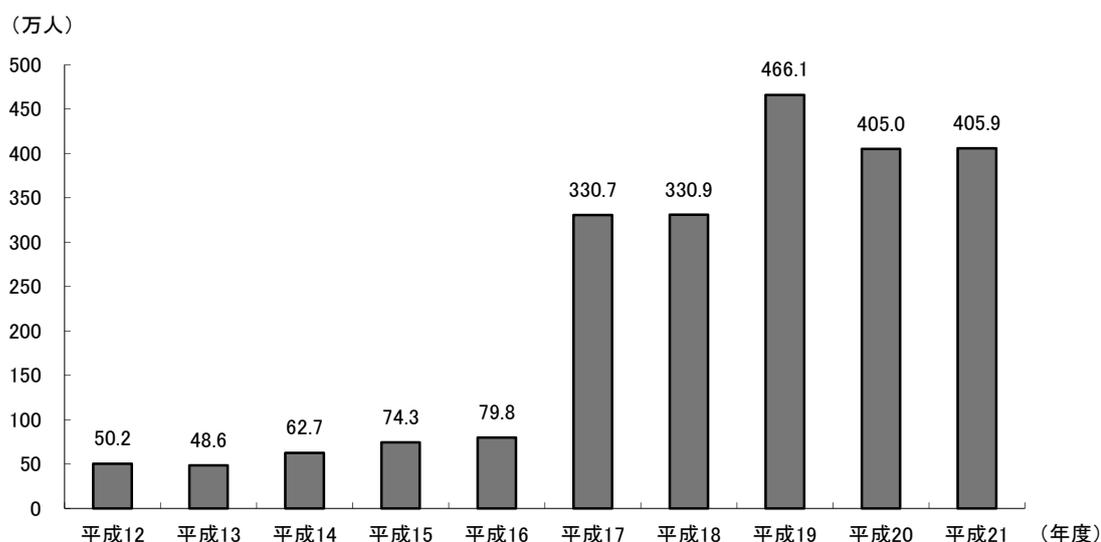


資料：千歳市資料

(3) 市街地地区の観光入込客数・宿泊客数～道内日帰り客が極端に多い傾向が続いている

市街地地区の観光入込客数の推移を見ると、アウトレットモールが開業した平成17年度以降大きく増加し、アウトレットモールが増床した平成19年度は466.1万人まで増加しました。平成21年度の観光入込客数は、工場見学などの産業観光で減少しましたが、イベント部門などで増加し、対前年度比0.23%増の405.9万人となっています。

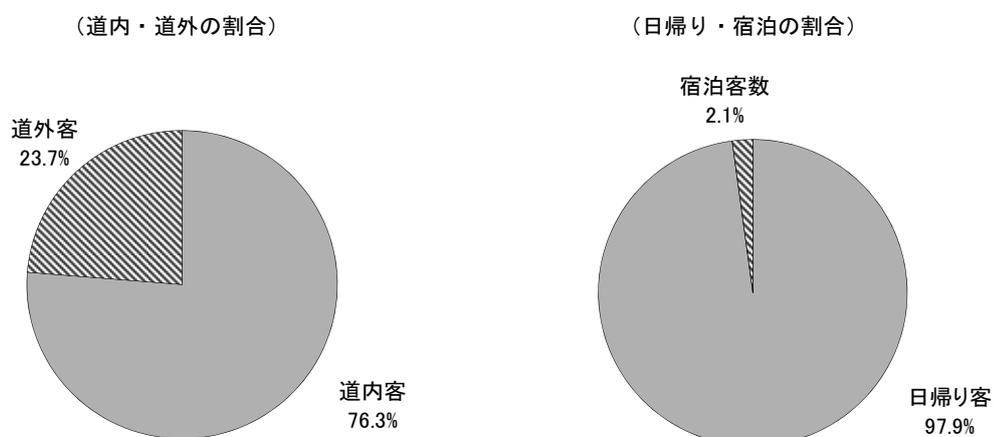
《市街地地区の観光入込客数の推移》



資料：千歳市資料

平成21年度の観光入込客数を道内客・道外客別に見ると、道内客が76.3%を占めています。また、日帰り客は97.9%となっており、市街地地区においては極端に道内からの日帰り客が多い構成となっています。

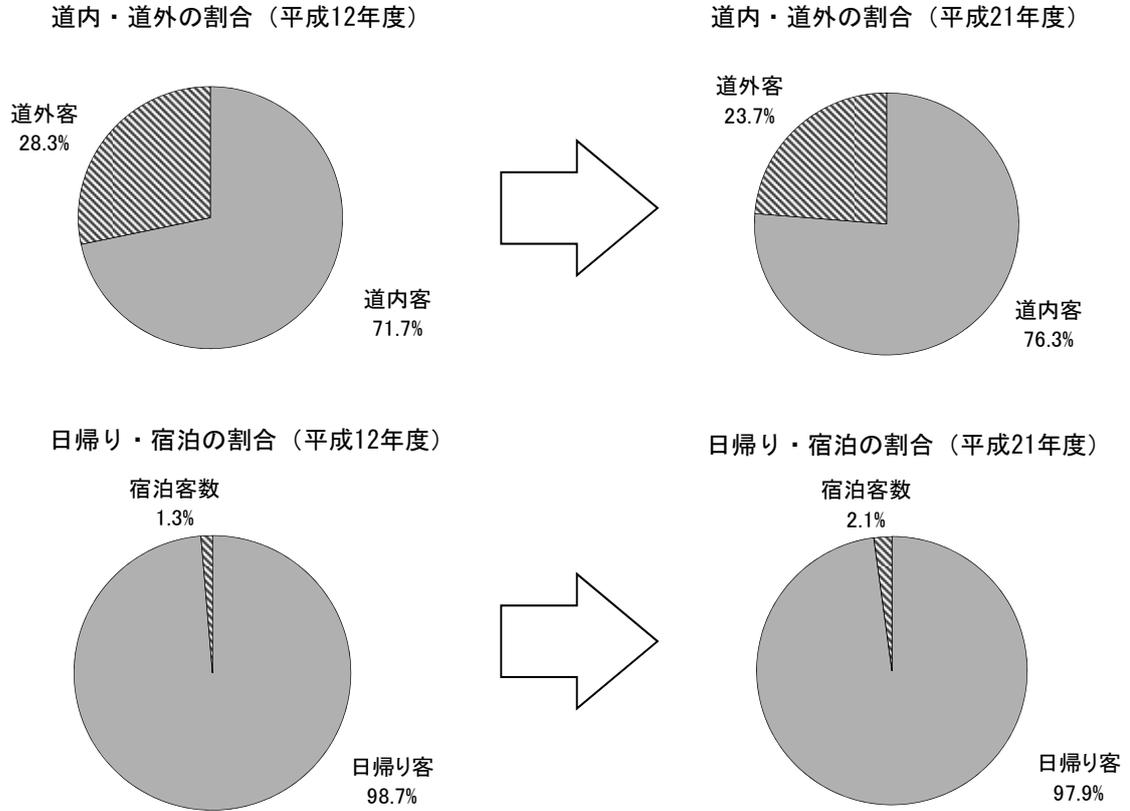
《市街地地区における、道内・道外、日帰り・宿泊の割合：平成21年度》



資料：千歳市資料

過去10年間における道内・道外客の割合と日帰り・宿泊客の割合の変化を見ると、変化幅としては小さいものの、道内客・宿泊客の割合がそれぞれ増加しています。

《市街地地区における道内・道外の割合、日帰り・宿泊の割合の変化》



資料：千歳市資料

5. 千歳市を訪れた観光客に対するアンケート調査結果

千歳市観光振興計画の策定に当たって、千歳市内の観光施設を訪れた観光客と千歳市内の宿泊客を対象としたアンケート調査を実施しました。

調査の概要及びアンケート結果は、次のとおりとなっています。

(1) 観光施設利用者に対する調査結果

【観光ポイント調査の概要】

調査時期：平成21年8月～10月

調査方法：ヒアリング（各観光地点における調査員による聞き取り面談方式）

調査地点：支笏湖地区2か所、市街地地区2か所、農村地区1か所

回収数：351票（支笏湖地区67票、市街地地区260票、農村地区24票）

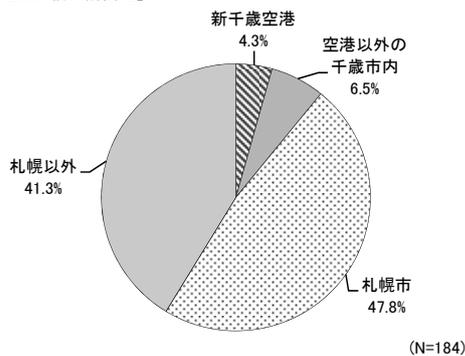
①千歳市内の観光地間の回遊性が不足

各調査地点の前後に訪れた観光地に関する設問では、道内客は自宅から千歳市内の観光地に直行し、観光終了後に他の観光地に立ち寄らずに帰宅するパターンが多くなっています。

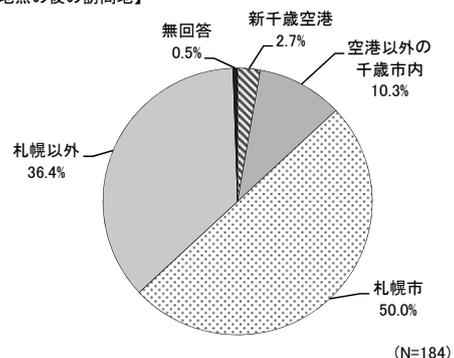
道外客については、新千歳空港に到着後、市内の観光地を訪問し、その後千歳市以外の観光地に向かうあるいは、その反対の行動パターンが多くなっています。道内客・道外客共に、千歳市内の観光地間の回遊性が不足しています。

《道内客における、各調査地点の前後の訪問地》

【調査地点の前の訪問地】

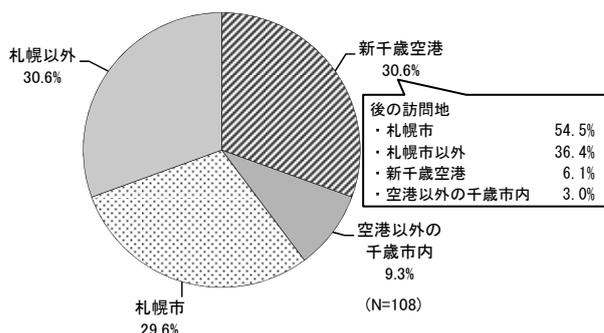


【調査地点の後の訪問地】

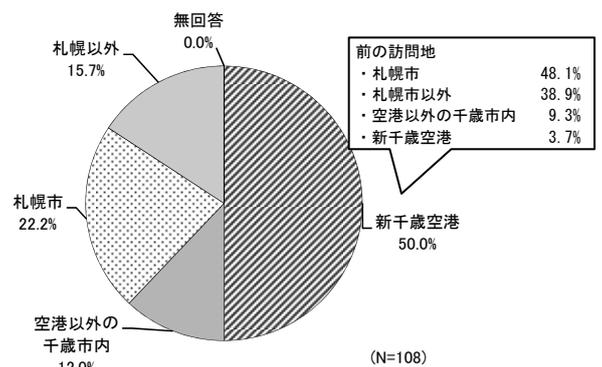


《道外客における、各調査地点の前後の訪問地》

【調査地点の前の訪問地】



【調査地点の後の訪問地】



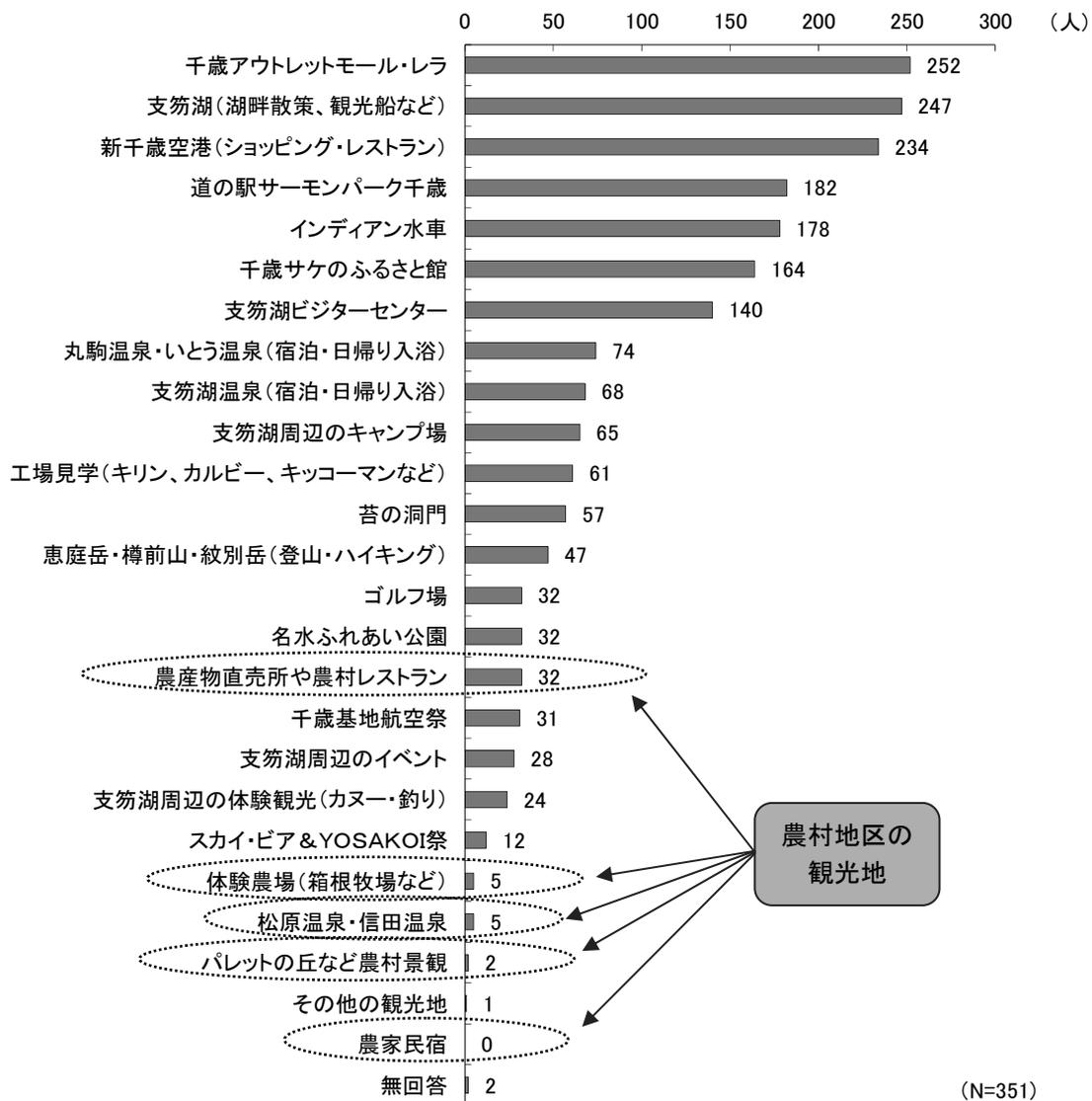
前の訪問地	
・札幌市	48.1%
・札幌市以外	38.9%
・空港以外の千歳市内	9.3%
・新千歳空港	3.7%

②農村地区を訪問した経験のある観光客が少ない

千歳市内の観光地の訪問経験については、「千歳アウトレットモール・レラ」(71.8%)が最も多く、次いで「支笏湖(湖畔散策、観光船など)」(70.4%)、「新千歳空港(ショッピング・レストラン)」(66.7%)と続いています。

農村地区については、最も回答数の多かった「農産物直売所や農村レストラン」でも1割以下の訪問経験率となっています。

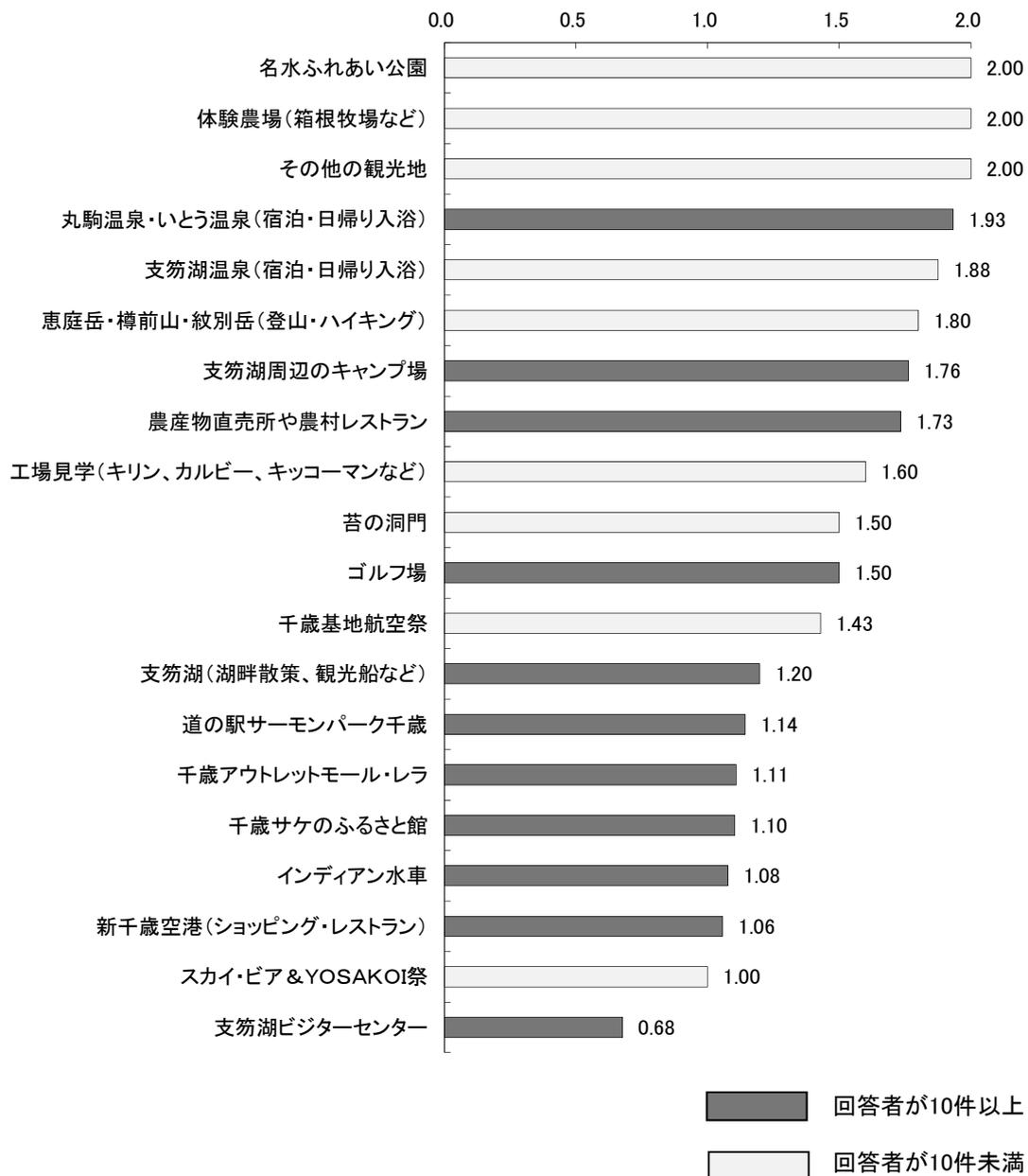
《千歳市内観光地の訪問経験》



③市街地の観光施設に比べて、支笏湖地区の温泉地などの評価が高い

観光地に対する評価については、市街地地区の観光資源に比べて、支笏湖地区の温泉地やキャンプ場が高い評価となっています。

《観光地に対する評価》



評価の計算方法

$$= (\text{満足} \times 2 + \text{やや満足} \times 1 + \text{どちらでもない} \times 0 + \text{やや不満} \times -1 + \text{不満} \times -2) \div \text{回答者数}$$

(2) 千歳市内宿泊者に対する調査結果

【宿泊客調査の概要】

調査時期：平成21年8月（支笏湖地区、市街地地区）、平成22年1月（支笏湖地区）

調査方法：留め置き（宿泊施設のフロントで宿泊客に調査票を配布）

調査地点：支笏湖地区3か所、市街地地区4か所

回収数：589票（支笏湖地区425票、市街地地区164票）

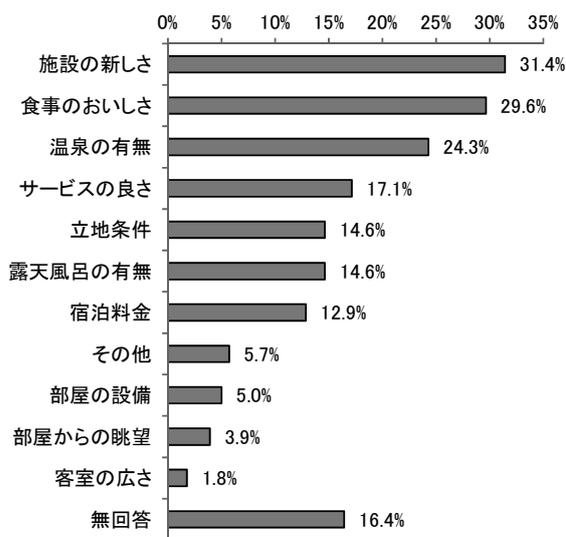
①道内容は「施設の新鮮さ」「食事のおいしさ」、道外客は「温泉の有無」を重視

支笏湖地区の宿泊客の回答を見ると、道内容が宿泊先を決める際に重視することは、「施設の新鮮さ」が最も多く、次いで「食事のおいしさ」「温泉の有無」と続いています。

一方、道外客では「温泉の有無」を重視する人が最も多く、「立地条件」「露天風呂の有無」が続いています。

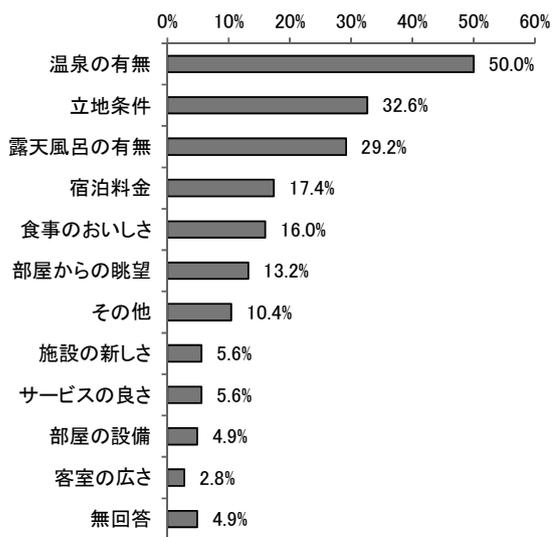
《宿泊先を決める際に重視すること》

【道内容の回答】



(N=280)

【道外客の回答】



(N=144)

②自然散策以外の体験観光を楽しむ割合は低い

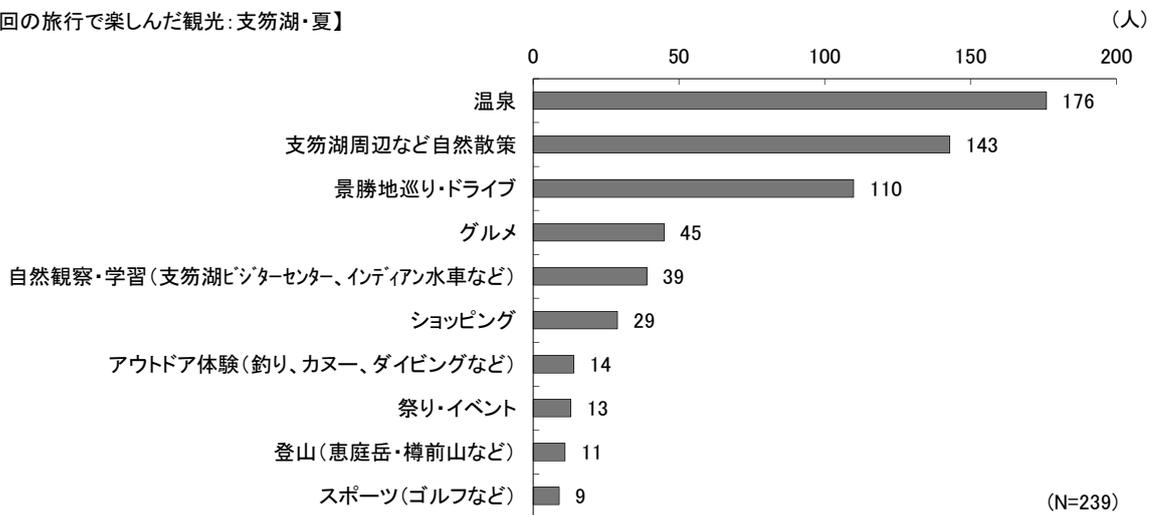
支笏湖地区の宿泊客の回答を見ると、千歳市内で楽しんだ旅行内容は、夏・冬共に「温泉」が最も多くなっています。夏・冬別に見ると、夏では「支笏湖周辺など自然散策」と「景勝地巡り・ドライブ」、冬では「グルメ」と「ショッピング」が続いています。

体験メニューに限って見ると、夏は「支笏湖周辺などの自然散策」を楽しむ観光客が最も多く143人(59.8%)となっていますが、次に多いのが「アウトドア体験(釣り、カヌー、ダイビングなど)」の14人(5.8%)となっており、需要の多い夏場であっても、自然散策以外の体験メニューを楽しむ割合は低い状況にあります。

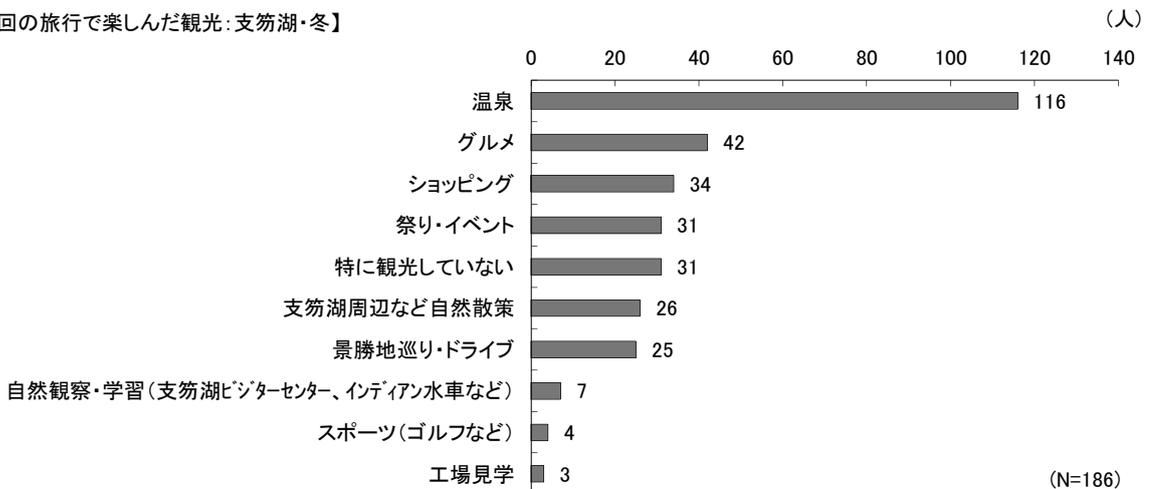
観光施設利用者に対する調査においても、「支笏湖周辺の体験観光(カヌー・釣り)」を体験した経験のある割合は6.8%(24人)となっており、同様の傾向が伺えます。

《千歳市内で楽しんだ旅行内容：上位10項目》

【今回の旅行で楽しんだ観光：支笏湖・夏】



【今回の旅行で楽しんだ観光：支笏湖・冬】



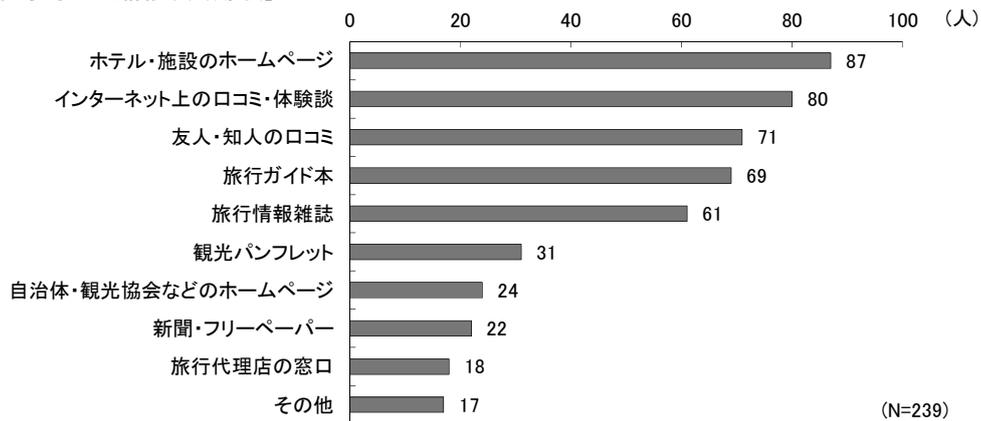
③「ホテル・施設のホームページ」と口コミが主な情報

旅行を計画する際に事前に参考にした情報としては、支笏湖地区では、「ホテル・施設のホームページ」が最も多く、「インターネット上の口コミ・体験談」が続いています。市街地地区では、「インターネット上の口コミ・体験談」が最も多くなっています。

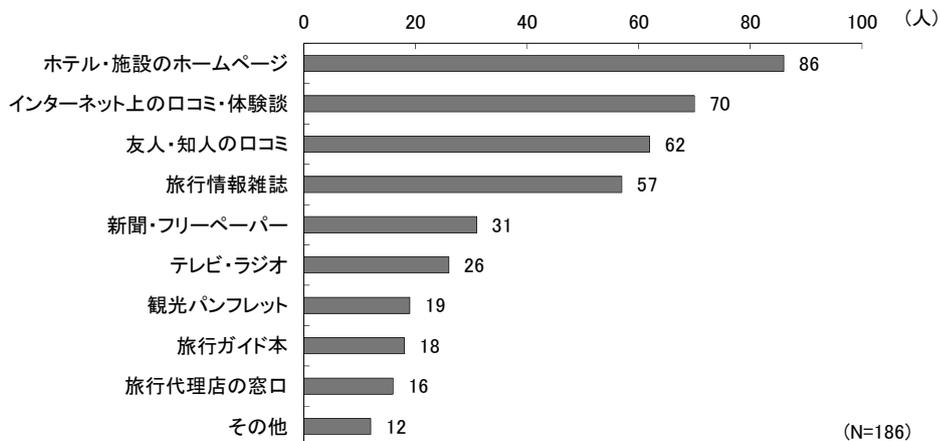
いずれの地区の回答においても、インターネット上から入手した情報を参考に行っている観光客が多くなっており、この傾向は年齢層が低いほど顕著に現れています。

《旅行を計画する際に事前に参考にした情報：上位10項目》

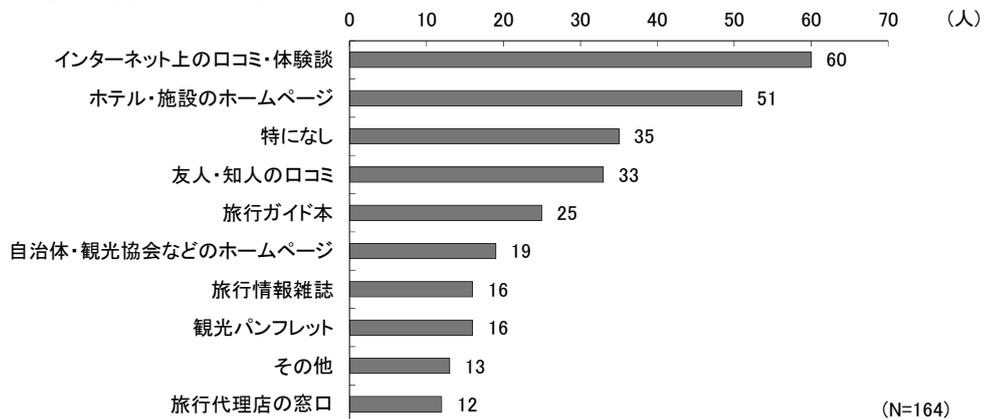
【事前に参考にした情報：支笏湖・夏】



【事前に参考にした情報：支笏湖・冬】



【事前に参考にした情報：市街地】



《旅行を計画する際に事前に参考にした情報：年齢層別》

支笏湖地区の回答	全体	10～20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
ホテル・施設のホームページ	40.7%	48.3%	48.8%	47.7%	37.4%	36.2%	9.5%
インターネット上の口コミ・体験談	35.3%	34.5%	46.3%	45.3%	30.4%	28.7%	9.5%
友人・知人の口コミ	31.3%	27.6%	33.8%	34.9%	30.4%	28.7%	28.6%
旅行情報雑誌	27.8%	24.1%	28.8%	27.9%	25.2%	30.9%	28.6%
旅行ガイド本	20.5%	17.2%	22.5%	20.9%	25.2%	13.8%	19.0%
新聞・フリーペーパー	12.5%	10.3%	7.5%	4.7%	13.9%	21.3%	19.0%
観光パンフレット	11.8%	13.8%	7.5%	9.3%	13.9%	13.8%	14.3%
テレビ・ラジオ	9.6%	3.4%	7.5%	11.6%	12.2%	8.5%	9.5%
旅行代理店の窓口	8.0%	6.9%	3.8%	11.6%	6.1%	11.7%	4.8%
自治体・観光協会などのホームページ	7.1%	10.3%	6.3%	4.7%	8.7%	6.4%	9.5%
その他	6.8%	6.9%	3.8%	3.5%	7.8%	10.6%	9.5%
特になし	3.3%	6.9%	2.5%	2.3%	3.5%	3.2%	4.8%
無回答	3.8%	3.4%	2.5%	1.2%	5.2%	5.3%	4.8%

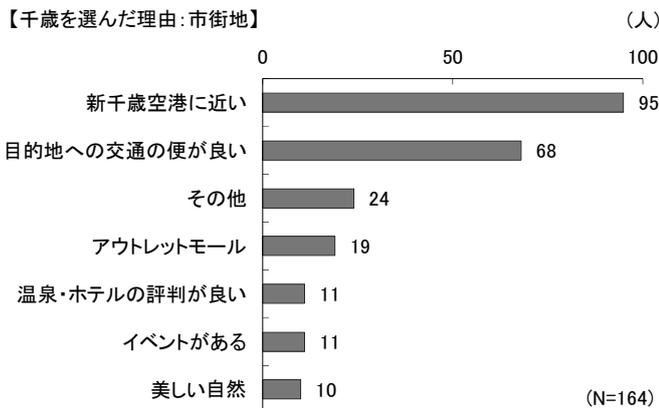
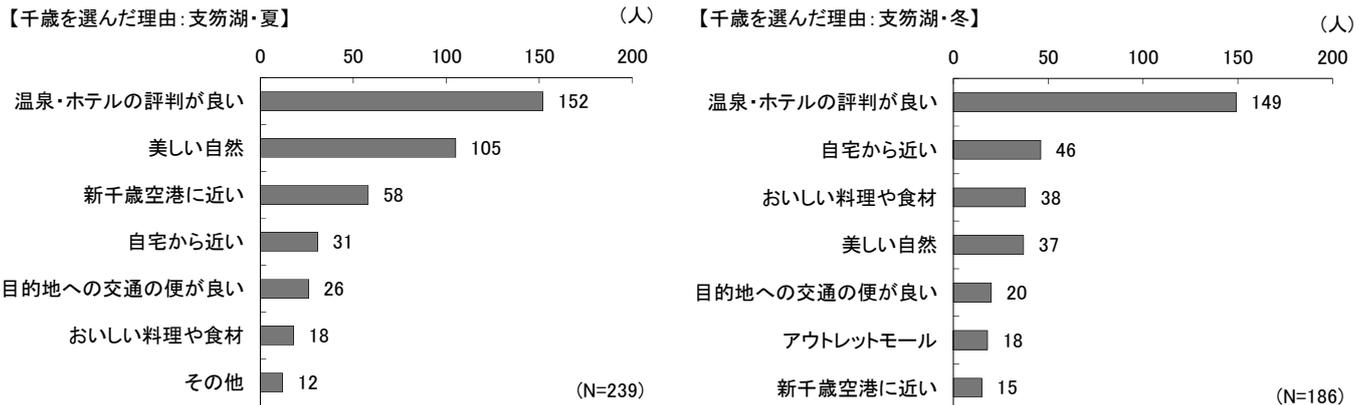
※複数回答なので縦の欄の合計は100%にならない。

④空港に近く、良質な温泉と美しい自然が魅力

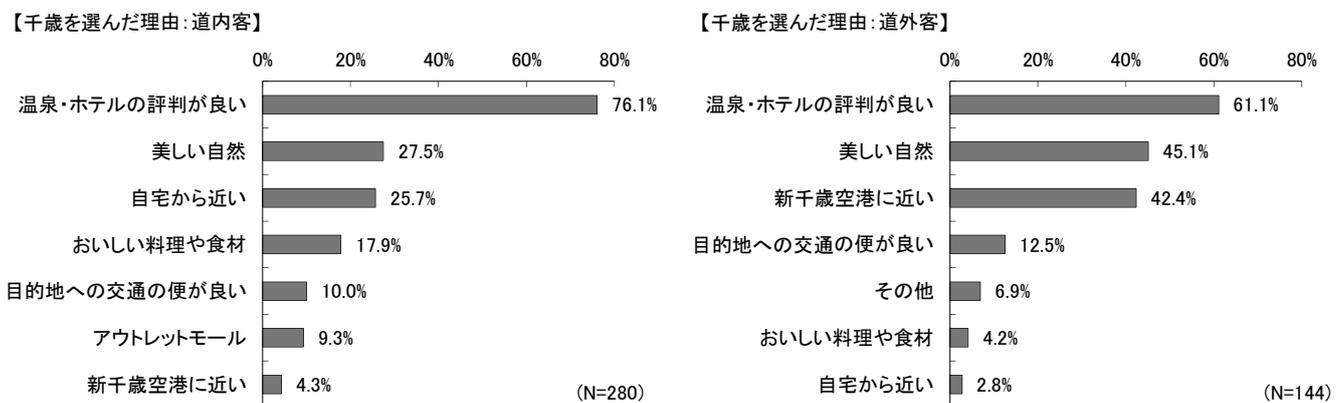
千歳市を旅行先（宿泊先）に選んだ理由については、支笏湖地区では「温泉・ホテルの評判が良い」が最も多く、市街地地区では「新千歳空港に近い」が最も多くなっています。

市街地地区に宿泊した道外客の選定理由を見ると、「美しい自然」「新千歳空港から近い」という回答も4割を超えており、空港近くにある良質な温泉と美しい自然が魅力となっていることが伺えます。

《千歳市を旅行先（宿泊先）に選んだ理由：上位7項目》



《道内容と道外客の比較：支笏湖地区の回答》



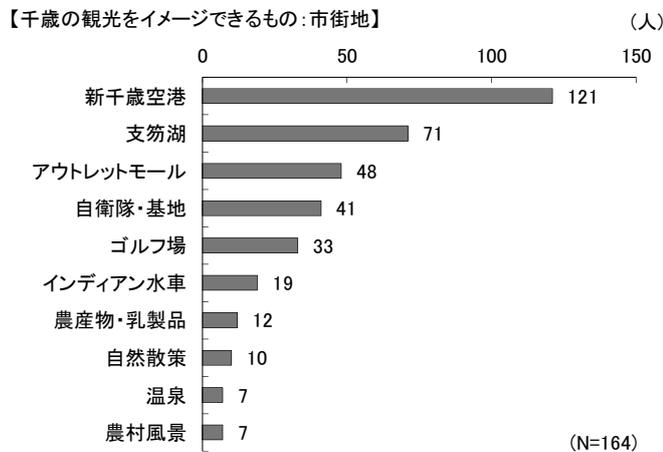
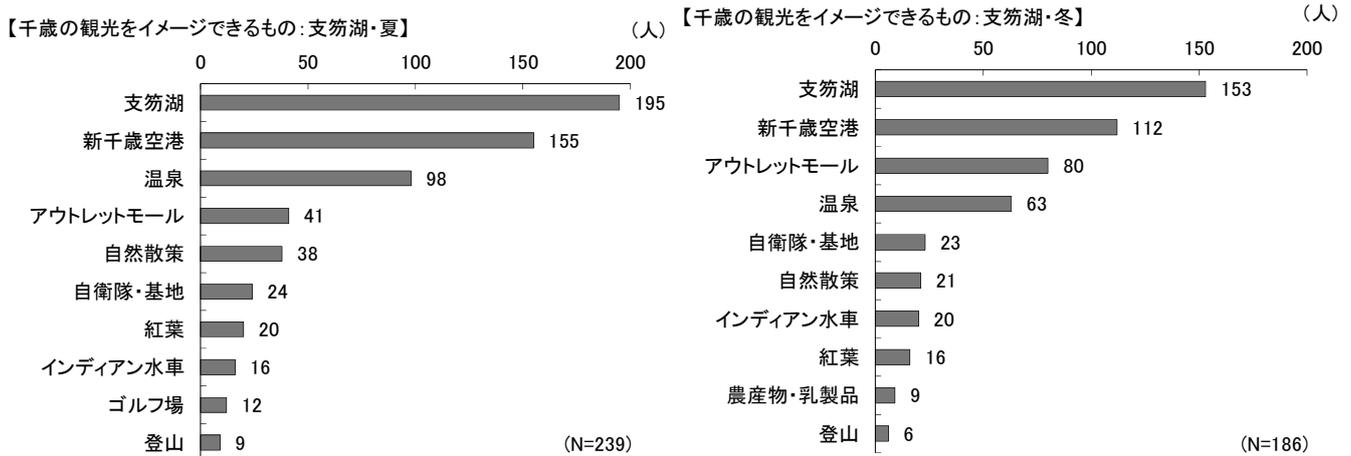
⑤千歳観光のイメージは「支笏湖」「新千歳空港」「温泉」

千歳市の観光をイメージできるものとしては、支笏湖地区では、「支笏湖」という回答が最も多く、次いで「新千歳空港」、「温泉」、「アウトレットモール」と続いています。

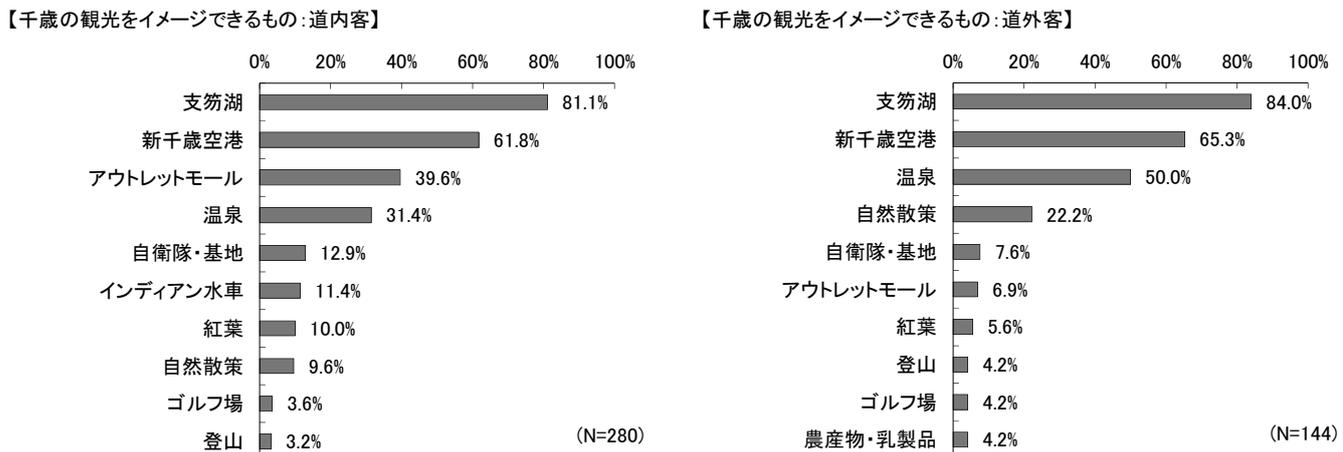
市街地地区では、「新千歳空港」という回答が7割を超えており、空港のある街というイメージが強くなっています。

また、道内容と道外客を比較すると、道内容では「アウトレットモール」、道外客では「自然散策」についても回答が多くなっています。

《千歳観光のイメージ：上位10項目》

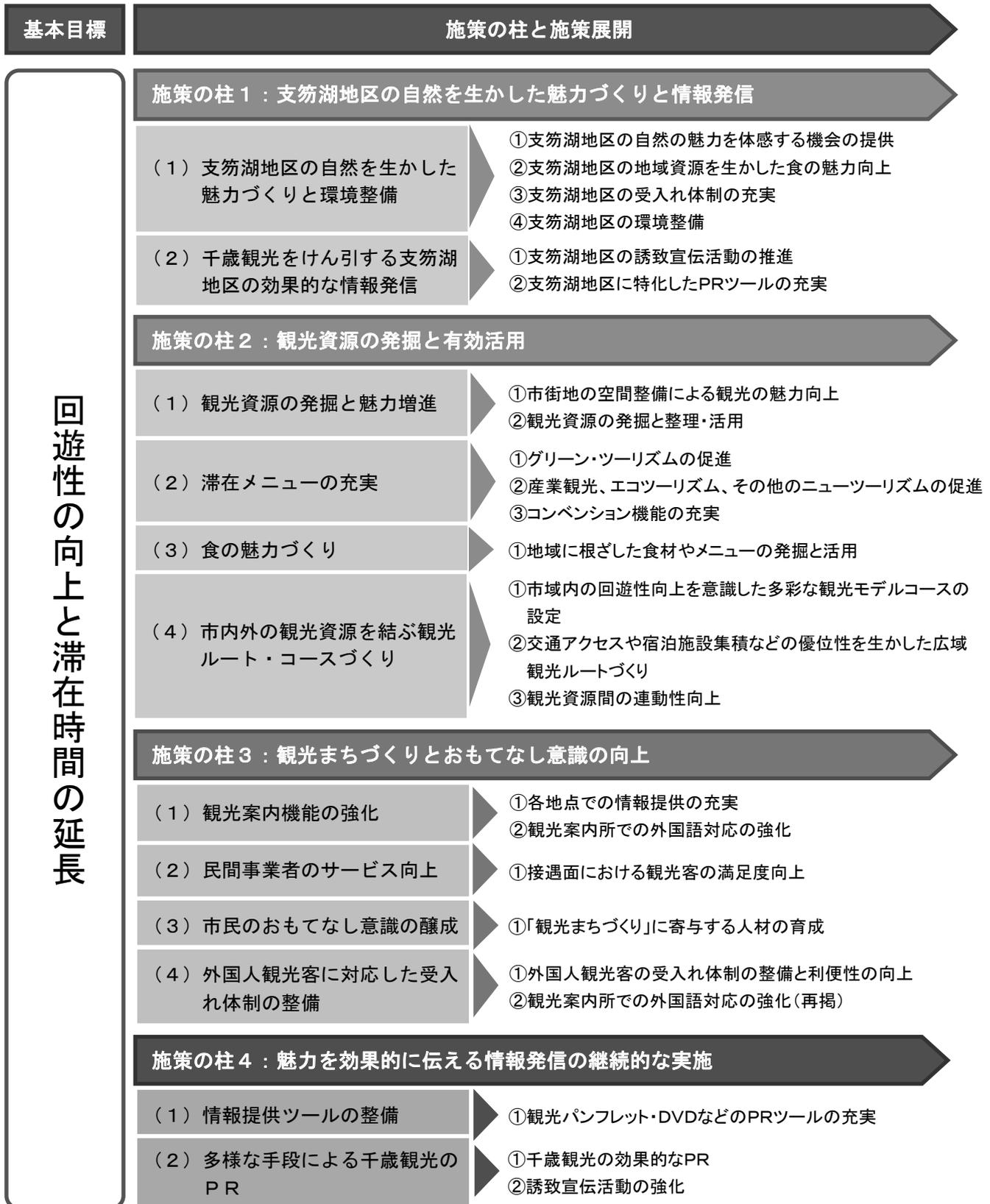


《道内容と道外客の比較：上位10項目》



第3章 観光振興計画

1. 計画の体系



2. 観光振興に対する考え方とコンセプト・目標

(1) 観光振興に対する考え方

平成21年度北海道観光入込客数調査によると、千歳市の観光入込客数は道内4位（496万人）となっています。一方、宿泊客延べ数は道内23位（25.2万人泊）となっており、千歳市は宿泊客の占める割合が極端に低い日帰り・立寄り型の観光地であるといえます。

一般的に、日帰りの観光客は宿泊客に比べて観光消費額が少ない傾向にあることから、「観光消費額の増加」が千歳観光の大きな課題となっています。

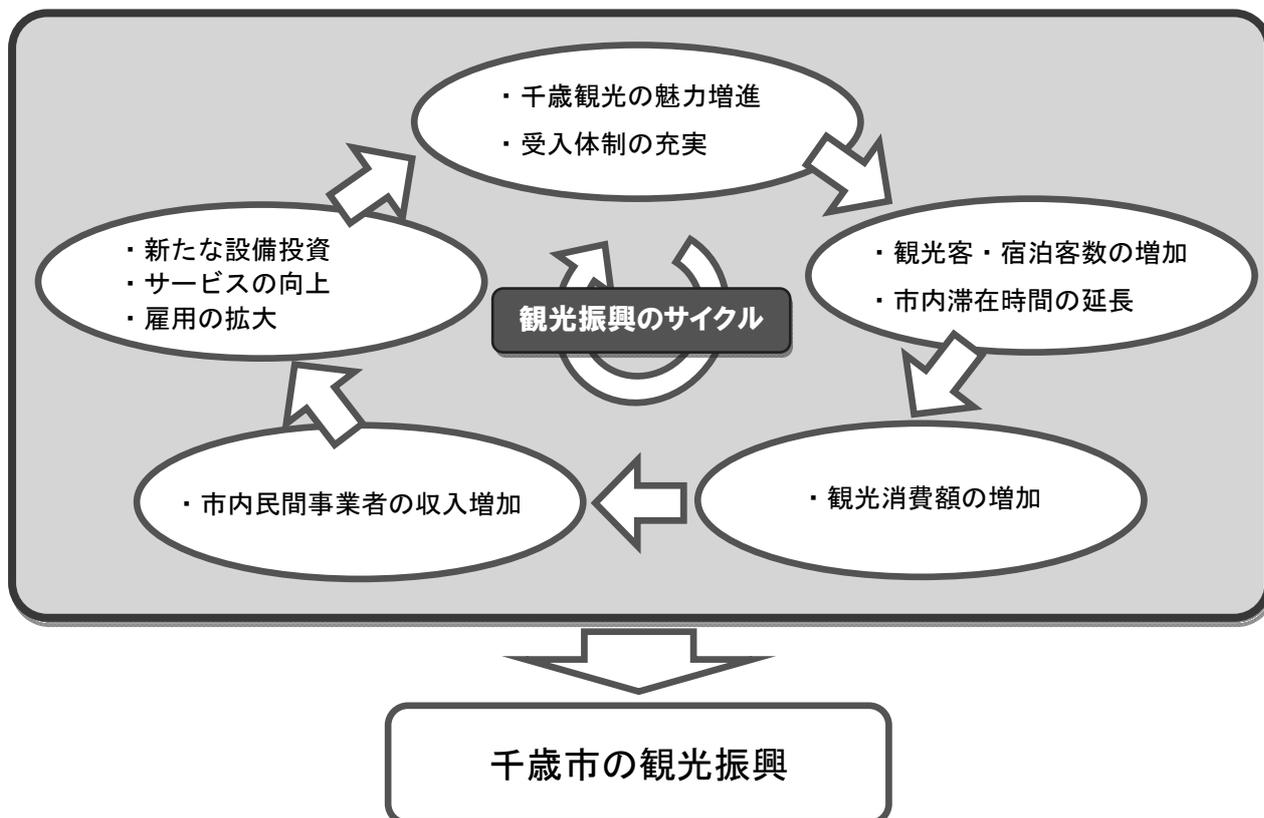
国内人口が減少している中、観光消費額を増加させるには、宿泊客数の増加を図るとともに、観光客の回遊性を高め千歳市内での滞在時間を延長させる必要があります。

また、新千歳空港という国内・国際的な交流基盤と千歳市内の観光資源を有効活用しながら、国内観光客の再訪と国内のみならず海外からの来訪を促進するほか、新千歳空港の国際拠点空港化を目指し、関係団体等と連携して国内外の定期航空路線の維持・拡充に努めることも必要です。

(2) 観光振興のサイクル

観光消費額の増加は、民間事業者の収入増のみならず、新たな設備やサービスの向上に対する投資への期待につながるほか、雇用の拡大にも好影響を与えます。さらに、民間事業者の設備投資などにより、千歳観光の魅力が高まると、観光客の増加や滞在時間が延長され、千歳市の観光振興が進展するといった好循環が生まれます。

《観光振興のサイクル》



(3) 計画の基本コンセプト

計画の基本コンセプトは、「空が結ぶまち千歳・水が繋(つな)ぐまち千歳～豊かな自然(水・緑・温泉)と交通アクセスを生かした観光地づくり～」とします。

この計画の基本コンセプトは、千歳観光の将来性や方向性を示す計画上の指針であるほか、千歳観光のイメージを確立し、観光客や旅行会社などに千歳観光の素晴らしさを伝えるメッセージとなります。

計画の基本コンセプトには、豊かな自然と交通アクセスを生かした観光地づくりを進めることにより、空路で結ばれている国内外の各地から、多くの観光客が千歳市を訪れ、清流千歳川がつなぐ千歳市内の各地区を回遊し、滞在時間が延びることへの期待を込めています。

【千歳観光の基本コンセプト】

空が結ぶまち千歳・水が繋^{つな}ぐまち千歳
～豊かな自然(水・緑・温泉)と交通アクセスを生かした観光地づくり～

「空が結ぶまち千歳」

北海道の空の玄関である新千歳空港や、手付かずの自然が残されている支笏湖の澄んだ空気、農村地区の青い空が、空路で世界各地と結ばれるといった無限の広がりを持つ千歳の可能性を表現しています。

「水が繋^{つな}ぐまち千歳」

支笏湖から市街地の中心部を流れ、農村地区の一部を潤している清流千歳川が「支笏湖」「市街地」「農村」をつなぐ象徴的な存在であり、この清らかな流れとともに千歳観光を発展させようとの思いを表現しています。

(4) 計画の基本目標と施策の柱

計画の基本目標は、「(1) 観光振興に対する考え方」及び「(2) 観光振興のサイクル」で示したとおり、観光消費額の増加が肝要と考え「回遊性の向上と滞在時間の延長」とします。

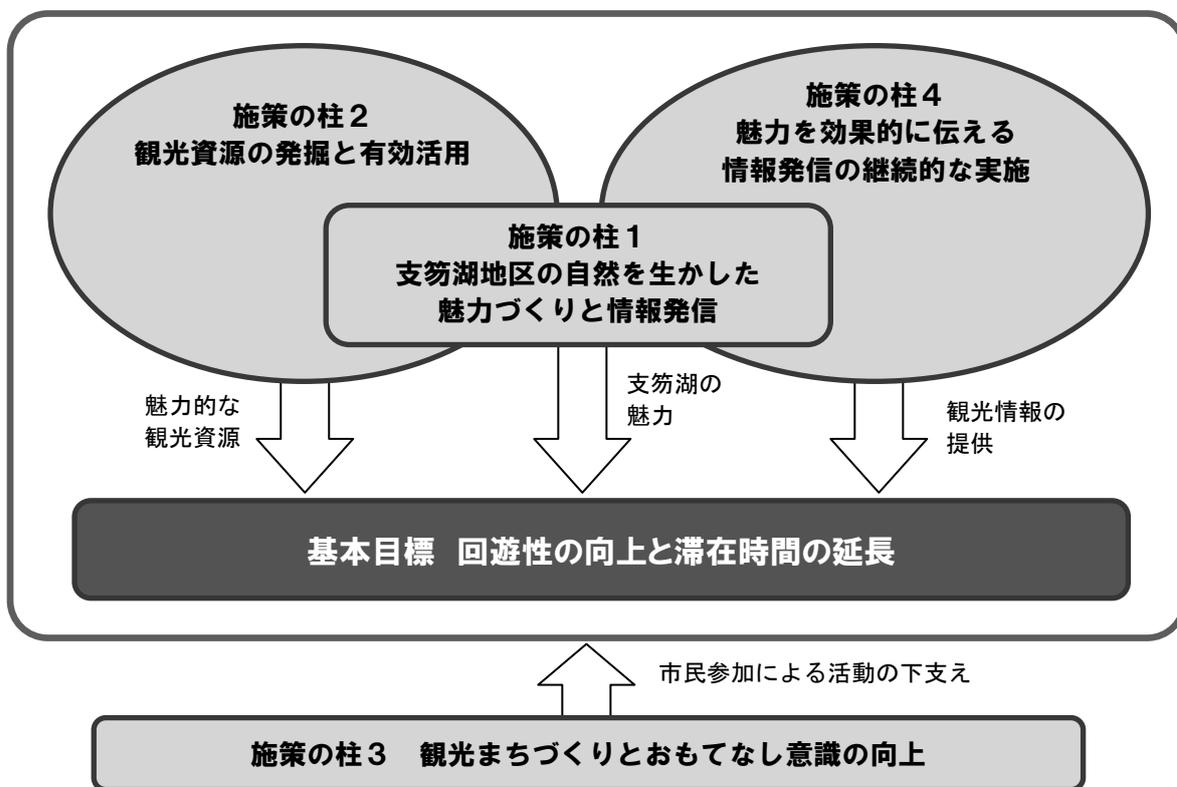
この基本目標を実現するために、「①支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信」「②観光資源の発掘と有効活用」「③観光まちづくりとおもてなし意識の向上」「④魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施」を施策の柱に据え、柱ごとに現状と課題を整理し、今後推進すべき施策を展開していきます。

施策の柱は、「千歳市第6期総合計画」の観光振興の柱「(1) 観光都市としての魅力づくり」「(2) 観光客の満足度を高める受入れ環境の充実」「(3) 観光客誘致宣伝活動の推進」の3本柱に対応した順となっています。

なお、支笏湖については、千歳観光を代表する観光資源であることから、施策の柱1

として取り上げ、この魅力をけん引役に千歳観光の集客力向上を図っていきます。

《基本目標と施策の柱の整理》



(5) 計画の指標

計画に掲げる各種施策が有効に機能し滞在時間が延びると、観光客の消費額の増加につながります。

このため、千歳市観光振興計画では、観光消費額を計画の指標とします。

指標	平成23年度 (新規調査)	平成27年度	平成32年度
観光消費額	千歳市内における 平均消費額	増加	増加

(6) 計画の推進体制

千歳市は、観光による地域経済の活性化と魅力的なまちづくりを地域が一体となって推進するため、新たな観光振興計画を策定しました。

千歳市では、この計画に基づき、国・北海道・近隣市町村を始め、観光振興に関連する機関、団体などとの連携を図りながら、観光情報の収集に努め、地域のイメージを発信するとともに、民間事業者及び市民の活動支援や、基盤整備を含めた総合的な施策の

推進を図ります。

計画には、今後10年間で取り組むべき施策とその実施主体の目安を示していますが、裾野の広い産業と呼ばれている観光は、旅行会社や宿泊施設、観光レクリエーション施設、飲食店、旅行雑誌社、交通機関など関連する事業者が多岐にわたっており、その推進には各主体の積極的な取組と様々な主体との連携が求められます。

特に、地域力を結集し千歳観光をより盛り上げていくには、観光振興の一翼を担い積極的に事業展開している千歳観光連盟や千歳商工会議所との連携が欠かせません。

千歳市では、これらの組織と連携し、具体的な事業の検討や計画の進行管理等を定期的に行う場を設け、計画に掲げた施策等を着実に実行していきます。

3. 施策の展開

施策の柱 1 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信

支笏湖とその周辺の手付かずの自然は、千歳市の最も重要な観光資源となっています。

支笏湖地区の魅力は、国立公園として保護されてきた豊かな自然景観や温泉などが、新千歳空港から至近にあり、比較的移動に時間を要しないで楽しめることにあります。

施策の柱1「支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信」では、支笏湖地区の自然環境の保全に配慮した魅力づくりと情報発信を推進し、ひいては千歳観光全体の魅力向上につなげていきます。

【現状と課題】

■支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと環境整備

千歳市を代表する観光地である支笏湖は、アンケート調査の結果を見ても観光客への認知度・訪問経験共に高くなっていますが、立寄り型の観光客が多く、雄大な自然をより深く楽しむ体験型の観光客は少ない状況にあるといえます。

登山・自然散策・カヌーなどの自然を生かした多彩な体験メニューの展開とPR、地元食材を生かしたメニューづくりなどにより、他の観光地との差別化を図ることが必要です。

そのためには、支笏湖の観光を支える人材・組織の育成や、観光客を迎え入れるための環境整備が求められています。

また、湯量が不足している支笏湖温泉の新たな泉源の確保も課題となっています。

■千歳観光をけん引する支笏湖地区の効果的な情報発信

支笏洞爺国立公園に属する支笏湖は、日本最北の不凍湖としても知られています。この支笏湖の魅力は、交通アクセスの良さと、湖を囲む山々や温泉、森に息づく動植物などの豊かな自然環境を兼ね備えているところにあります。

新千歳空港から車で僅か40分足らずで堪能できる「静かな佇まい」の観光地支笏湖というイメージを浸透させ、こうした魅力をPRすることで、千歳市を訪れる観光客の増加につなげていく必要があります。

(1) 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと環境整備

① 支笏湖地区の自然の魅力を生かす機会の提供

支笏湖周辺には、自然散策のほか、夏の「支笏湖湖水まつり」や冬の「千歳・支笏湖氷濤まつり」など四季折々のイベントが開催され、多くの観光客が訪れています。

支笏湖地区の自然の魅力を生かした体験メニューやイベントの充実を図り、観光の通年化や観光入込客数と滞在時間の増加につなげていきます。

戦略的な取組

◎ 多彩な体験メニューと商品づくり

支笏湖周辺では、登山を楽しめる山々、温泉やキャンプ場があるほか、釣りなどができ多彩な体験観光や学習メニューの展開が可能です。

こうした条件を生かした地域ならではの体験メニューづくりと、民間事業者や団体等による体験観光の商品化を促進し、観光の通年化を図ります。

○ 四季折々のイベントの魅力拡充とPR

○ 温泉湯めぐり手形の促進

② 支笏湖地区の地域資源を生かした食の魅力向上

市の魚に指定されているヒメマスは、支笏湖を代表する食資源です。

この支笏湖産ヒメマスを活用した食の発掘や、既存のご当地グルメの普及・定着に努めるとともに、支笏湖産ヒメマスなどを活用した新たなメニューづくりを促進します。

また、観光客に親しまれているヒメマスの更なる商品化を推進し、「支笏湖産ヒメマス」のブランド形成を促進します。

○ ご当地グルメの定着・普及

○ ヒメマスなどを活用した食の発掘等

○ 支笏湖産ヒメマスのブランド形成

③支笏湖地区の受入れ体制の充実

外国人観光客にも対応した体験観光等を推進するため、その受け皿となる組織の育成など受入れ体制の充実を図り、観光地としての魅力を高めます。

戦略的な取組

◎地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成

小グループでの旅行が増加し、多様化・深化している観光客のニーズに対応するため、支笏湖地区の魅力を十分に理解した、地元発の旅行商品づくりとそのPR活動を行う組織を支援します。

◎支笏湖地区の魅力を伝える案内体制の整備

資源の保全、利用者の安全管理に正しい技量と知識を持ち、支笏湖地区の魅力を観光客に分かりやすく説明することができるガイドの育成に努めます。

また、増加傾向にある外国人観光客に対応可能な案内スタッフの配置や、案内表示の多言語化を推進するなど、外国人観光客が支笏湖地区を楽しめる体制整備を促進します。

④支笏湖地区の環境整備

温泉、キャンプ場、苔の洞門、ヒメマスなど支笏湖周辺の観光資源を活用している民間事業者等の円滑な事業展開を促進します。また、訪れた観光客が安心安全で快適に過ごせるよう支笏湖周辺の環境整備に努めます。

戦略的な取組

◎新たな泉源開発

支笏湖温泉は湯量が減少しており、新たな泉源の確保が喫緊の課題となっています。支笏湖温泉地域のホテルなどに安定した湯量を供給するため、新たな泉源を開発します。

◎ヒメマスの安定供給に向けた施設の整備

ヒメマスふ化放流事業を計画的に推進し、その円滑化と防疫対策を充実させるため、老朽化した支笏湖ヒメマスふ化場の改築や関連施設を整備します。

○苔の洞門のあり方の検討

○キャンプ場の環境整備

- 高速通信網の整備促進
- 解説看板・誘導案内板等の整備
- 清潔で美しい観光地づくりに向けた美化活動の促進
- ポロピナイ園地の整備

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
◎多彩な体験メニューと商品づくり	協働	◎	
○四季折々のイベントの魅力拡充とPR	民間	○	
○温泉湯めぐり手形の促進	民間	○	
○ご当地グルメの定着・普及	協働	○	
○ヒメマスなどを活用した食の発掘等	協働		○
○支笏湖産ヒメマスのブランド形成	民間		○
◎地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成	協働	◎	
◎支笏湖地区の魅力を伝える案内体制の整備	協働	◎	
◎新たな泉源開発	行政	◎	
◎ヒメマスの安定供給に向けた施設の整備	行政	◎	
○苔の洞門のあり方の検討	協働	○	
○キャンプ場の環境整備	行政	○	
○高速通信網の整備促進	民間	○	
○解説看板・誘導案内板等の整備	行政	○	
○清潔で美しい観光地づくりに向けた美化活動の促進	協働	○	
○ポロピナイ園地の整備	行政	○	

※想定される実施主体：行政・民間・協働（行政と民間又は市民との連携）に区分

行政とは、国・北海道・千歳市・札幌広域圏組合をいう

民間とは、民間事業者・千歳商工会議所・千歳観光連盟・その他観光関係機関・団体をいう

市民とは、千歳市民・市民団体等をいう

※着手時期：「前期」（5年以内）「後期」（10年以内）、◎は戦略的な取組、○はその他の取組

(2) 千歳観光をけん引する支笏湖地区の効果的な情報発信

①支笏湖地区の誘致宣伝活動の推進

旅行会社への商品化に向けた働きかけや、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどのメディアへの露出度を上げるための活動、観光キャンペーン、広告等の誘致宣伝活動を温泉旅館組合や市内の民間事業者等との連携により推進します。

戦略的な取組

◎組織力を生かした誘致宣伝活動の展開

独自の誘致宣伝活動を展開し、誘客のノウハウが蓄積されている宿泊施設とそれらが加入する温泉旅館組合や、市内の民間事業者等とも連携しながら、支笏湖を始め千歳市全体のPRや商品化の働きかけを展開していきます。

○地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成（再掲）

②支笏湖地区に特化したPRツールの充実

支笏湖地区に特化した多言語パンフレット等を整備するとともに、観光キャンペーンなどでの活用を前提としたマスコットキャラクターの開発を進めます。

○多言語化によるパンフレットの作成

○地域をPRするマスコットキャラクターづくり

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
◎組織力を生かした誘致宣伝活動の展開	協働	◎	
○地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成（再掲）	協働	○	
○多言語化によるパンフレットの作成	協働	○	
○地域をPRするマスコットキャラクターづくり	協働	○	

施策の柱2 観光資源の発掘と有効活用

千歳市には、支笏湖以外にも数多くの魅力ある観光資源・施設があります。

施策の柱2「観光資源の発掘と有効活用」では、未だ顕在化していない観光資源の発掘や、観光客等に既に認知されている観光資源等の更なる有効活用に向けた取組を、千歳市内外からの視点を活用しつつ推進し、千歳観光の魅力向上に努めます。

【現状と課題】

■観光資源の発掘と魅力増進

千歳市内には、支笏湖や千歳サケのふるさと館、アウトレットモール、観光農園、ファームレストランなど、観光の対象となる様々な資源・施設がありますが、集客には偏りがあります。

新たな観光資源の発掘や、既存資源・施設の魅力増進に加え、支笏湖やアウトレットモールなど集客力のある資源と周辺の観光資源を組み合わせたメニューの構築が求められています。

■滞在メニューの充実

千歳市内での回遊性を高め滞在時間を延ばすには、自然環境、農村空間、見学可能な工場などの資源を生かした滞在メニューを充実させることが必要です。

自然環境や雪を生かした体験型の観光、スポーツ観光などの新たなツーリズムの促進には、従来の枠組みを越えた様々な産業・組織などとの連携が不可欠になっていますが、その体制は整備されていません。

グリーン・ツーリズムについては、協議会など組織的な体制は整備されていますが、個々の農家における農家民泊・農業体験への受入れ体制の整備が求められています。

また、千歳市内で開催される国際大会・会議などのコンベンションについては、参加者を市内観光に誘導することも必要です。

■食の魅力づくり

千歳市では多彩な農畜産物が生産されていますが、それらを活用したメニュー開発などは進んでいません。地域に根ざした食材を活用したメニューづくりなど、食の魅力を高める取組が必要です。

■市内外の観光資源を結ぶ観光ルート・コースづくり

平成21年度千歳市観光入込客数調査によると、千歳市を訪れる観光客の96%が日帰り観光客です。

日帰り・通過している観光客の回遊性を高めるため、「支笏湖」「市街地」「農村」の3地区内の観光資源などを一つのテーマで結びつけたストーリー性のあるコースづくりが

求められています。

さらに、千歳市は空港から近く道央圏の中央に位置するため、交通結節点の利点を生かし広域観光の拠点形成することが求められています。

(1) 観光資源の発掘と魅力増進

①市街地の空間整備による観光の魅力向上

集客力のある道の駅の整備や、千歳川のにぎわい創出に向けた空間整備など、市街地地区の観光スポットとしての魅力を向上させます。

戦略的な取組

◎道の駅の魅力向上

道の駅利用者の利便性と満足度を高めるため、特産品などの物販・案内機能の強化や周辺の河川風景を生かした施設等を再整備し、市街地地区の更なる魅力づくりを推進します。

◎千歳川の魅力向上と有効活用

支笏湖を水源とし市街地を貫流する清流千歳川は、まちの象徴となっています。サケが遡上する川として親しまれているこの千歳川の親水性を高めるなど、市民や観光客が楽しめる空間整備を推進します。

②観光資源の発掘と整理・活用

千歳市民等から新たな観光資源となり得る素材を公募するなど、観光資源の発掘や有効活用に努めるとともに、観光資源に関する情報の整理と活用を進めます。

戦略的な取組

◎観光資源データベースの構築と活用

千歳市内の観光資源を、さまざまな角度で見直す資料とするため、その概要や特徴、写真・映像、開放状況などの情報をまとめたデータベースを構築します。

○千歳市内外から見た観光資源の発掘と活用

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
◎道の駅の魅力向上	行政	◎	
◎千歳川の魅力向上と有効活用	行政	◎	
◎観光資源データベースの構築と活用	行政	◎	
○千歳市内外から見た観光資源の発掘と活用	協働	○	

(2) 滞在メニューの充実

①グリーン・ツーリズムの促進

千歳市における農業体験の需要は、新千歳空港に近いことや教育旅行の目的が体験学習中心に変化していることなどにより、増加傾向にあります。農家民泊への対応は、施設整備などの課題もあり大きな増加は難しい状況にありますが、周辺市町村や市街地の宿泊施設などとの連携を強化するなど、教育旅行を始めとした団体の農業体験の受入れや、直売所・レストランなどのサービスの充実を促進します。

○周辺市町村との連携による、農業体験等の受入れ

○個人観光客向けサービスの充実

○グリーン・ツーリズム連絡協議会との連携

○グリーン・ツーリズムの普及啓発

②産業観光、エコツーリズム、その他のニューツーリズムの促進

千歳市では、工場見学に代表される産業観光、自然環境を生かしたエコツーリズムや、マラソン・ゴルフを楽しむスポーツ観光、温泉・健康などをテーマとした様々なツーリズムが展開されています。

これらのニューツーリズムの充実を図るため、民間事業者や関係団体、宿泊施設などとの連携を強化し、多様化する観光ニーズに対応した取組を促進します。

○多様化するニューツーリズムに対応するための連携強化

③コンベンション機能の充実

新千歳空港を抱える千歳市には、大規模なホテルや千歳科学技術大学等のコンベンションなどを受け入れる条件が揃っています。

コンベンションは、諸外国や国内他地域とのヒト、モノ、情報のハイレベルな交流を促進し、地域に最先端の情報をもたらすほか、地域のイメージアップが図られるなどの効果を生み出します。また、参加者の宿泊、飲食等の消費を通じて、地域には大きな経済効果をもたらします。

関連機関などとの連携や機能整備により、スポーツ大会・合宿を含めたコンベンションの受入れ環境の充実に努め、コンベンションなどの参加者を市内観光に誘導し、観光による消費を促します。

○コンベンションなどの受入れ環境の充実

○アフターコンベンションの充実

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
○周辺市町村との連携による、農業体験等の受入れ	協働	○	
○個人観光客向けサービスの充実	民間	○	
○グリーン・ツーリズム連絡協議会との連携	協働	○	
○グリーン・ツーリズムの普及啓発	協働	○	
○多様化するニューツーリズムに対応するための連携強化	協働		○
○コンベンションなどの受入れ環境の充実	協働	○	
○アフターコンベンションの充実	協働		○

(3) 食の魅力づくり

①地域に根ざした食材やメニューの発掘と活用

地域の観光の魅力を考える際に、食の魅力は重要なテーマとなっています。

千歳市の農村地区では、小麦、てん菜、大豆、牛乳、鶏卵などの農畜産物が生産されているほか、駒里地区では地域振興策の一つとしてそばの栽培が行われています。

小豆、牛乳、ハスカップ、鶏卵は石狩管内で最も農業生産額が大きく、これらの地域の農畜産物を活用した新たなメニューの開発を、生産者や飲食店、学校などと連携し進めていきます。また、既存メニューや特産品などのPRと販売を促進します。

戦略的な取組

◎千歳ならではの食の発掘とPR

千歳ならではの食材としては、支笏湖産のヒメマス（チップ）や、ハスカップなどがあります。産学官連携により、これらの食材を活用した新たなメニュー開発とPRを進めるとともに、市民からのレシピ募集を行うなど、様々な形でメニュー化に向けた活動を進めます。

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
◎千歳ならではの食の発掘とPR	協働	◎	

(4) 市内外の観光資源を結ぶ観光ルート・コースづくり

①市域内の回遊性向上を意識した多彩な観光モデルコースの設定

千歳市内の観光地は、「支笏湖地区」「市街地地区」「農村地区」の大きく3つに分かれており、それぞれに異なる魅力と集客力のある施設等があります。千歳の歴史やストーリー性に着目し、「支笏湖+市街地」、「農村+市街地」といった各地区をつなぐ観光コースを設定するなど、市域内での回遊性の向上を図ります。

また、千歳市を通過するドライブ客や買い物客、市街地の宿泊客、新千歳空港の乗換え客などが短時間で楽しめるメニューを充実させることで、滞在時間と消費額の拡大を図ります。

戦略的な取組

◎地元発旅行商品の企画開発に向けた組織づくり

市内3地区のそれぞれの魅力や、観光メニューを生かしたルートを設定するとともに、観光コースを商品化できる組織の育成に努めます。

○千歳の歴史やストーリー性に着目した多彩なコースづくり

○市街地を散策するコースづくり

②交通アクセスや宿泊施設集積などの優位性を生かした広域観光ルートづくり

新千歳空港を起点にすると、札幌・小樽方面、旭川・富良野方面、日高方面まで日帰り観光のルートを形成することができます。同様に、支笏湖を起点にすると、登別・洞爺湖方面、ニセコ方面までのルートを形成できます。さらに、道東自動車道が開通すると帯広方面も日帰り観光圏内となります。このように、千歳市を起点に道内市町村の観光地と連携したコースづくりを行い、広域観光の拠点を形成します。

○空港や支笏湖を起点とした広域観光ルートづくり

○道内市町村と連携した広域観光への対応

③観光資源間の連動性向上

北海道内外からの千歳市への交通アクセスは、航空路線網（羽田空港発着枠の拡大に伴う便数増加、格安航空会社の就航など）や高速道路網の整備などにより、今後ますます向上することが期待されます。

その一方で、千歳市内の観光地間の移動、特に支笏湖—市街地—農村地区の移動に関しては、バスなど公共交通機関だけでは困難であり、自家用車やレンタカーが中心となっています。

観光客の回遊を促すために、千歳市内の観光地点を結ぶバス路線の確保（イベント

開催時の増便や臨時便を含む。) や、観光タクシー・レンタサイクルといった移動手段の整備など、観光資源間の連動を円滑にする取組を促進します。

○観光資源間の移動の円滑化に向けた取組の促進

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
◎地元発旅行商品の企画開発に向けた組織づくり	協働	◎	
○千歳の歴史やストーリー性に着目した多彩なコースづくり	協働	○	
○市街地を散策するコースづくり	協働	○	
○空港や支笏湖を起点とした広域観光ルートづくり	協働	○	
○道内市町村と連携した広域観光への対応	協働	○	
○観光資源間の移動の円滑化に向けた取組の促進	協働	○	

施策の柱3 観光まちづくりとおもてなし意識の向上

人口減少社会が到来し、観光客数の増加に向けたリピーターの確保や、外国人観光客の誘致が、これまで以上に重要となっています。

施策の柱3「観光まちづくりとおもてなし意識の向上」では、今後も増加が予想される外国人観光客を始め、イベントやスポーツ大会・合宿に参加する選手など千歳市を訪れる人に対するおもてなし意識の向上を図るため、民間事業者のサービスの向上を促進するとともに、観光案内所の機能を強化します。また、「観光まちづくり」に寄与する人材を育成するため、観光客を受け入れる民間事業者や市民などに対して、市内の観光資源の魅力や素晴らしさを広く周知し、観光都市としての認識を普及させる取組を推進します。

【現状と課題】

■観光案内機能の強化

通過・日帰り観光客の多い千歳市にとって、滞在時間を延ばし消費の拡大を図ることは重要な課題です。市内での回遊を促し滞在時間を延長するには、観光案内所等における外国人にも対応した適切な情報提供など、観光案内機能を強化する必要があります。

■民間事業者のサービス向上

千歳市を訪れる観光客の満足度を高めるためには、観光客を応対する民間事業者のサービス向上が欠かせません。現状を把握するための満足度調査の実施や、民間事業者への観光知識の普及などの活動を通じて、サービスの向上につなげていくことが求められています。

■市民のおもてなし意識の醸成

観光客を温かく迎え入れるためのおもてなしの意識は、民間事業者だけでなく、市民にも求められています。また、観光客は地域の生活文化に触れ合うことや、地域資源に精通した地元住民などによるガイドを必要としています。

市民が観光まちづくりに積極的に携わることは、自分たちのまちを見直す機会になるばかりでなく、これまで観光資源として取り上げてこなかった自分たちのまちの資源を発掘・再発見することにもつながります。

■外国人観光客に対応した受入れ体制の整備

北海道における観光客の入込み状況を見ると、国内からの観光客数は頭打ち状態にあり、外国人観光客、特に、中国を始めとするアジア圏からの観光客の増加が目立っています。

千歳市においても、同様に外国人観光客が増加しており、この傾向は今後も続くと予想されます。

しかし、外国人観光客の受入れ体制については、一部のホテルなどで整備されているものの、多くの施設等では十分な整備が行われていないのが現状です。今後の観光振興には、外国人観光客に対応した受入れ体制の整備を促進する必要があります。

また、外国人観光客の利便性を高めるため、外国語表記・ピクトグラム（絵文字）の案内看板等の整備を促進することも必要です。

(1) 観光案内機能の強化

①各地点での情報提供の充実

観光情報の提供は、観光客が集まる施設等で行うことが基本です。多くの観光客が訪れる新千歳空港や道の駅などでの情報提供の充実を図ります。

戦略的な取組

◎観光客の出発・立寄り地点における情報提供の充実

観光客の出発地点（新千歳空港・レンタカー営業所）や主な立寄り地点（道の駅・アウトレットモール）などにおける情報提供の充実を図り、市内の回遊性の向上を促します。

②観光案内所での外国語対応の強化

今後も増加が予想される外国人観光客に対応するため、各観光案内所における外国語による案内機能を強化します。

戦略的な取組

◎各観光案内所への外国語対応スタッフの配置

外国人観光客の利便性の向上を図るため、観光案内所に外国語で案内ができる人材の配置を促進します。

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
◎観光客の出発・立寄り地点における情報提供の充実	協働	◎	
◎各観光案内所への外国語対応スタッフの配置	協働	◎	

(2) 民間事業者のサービス向上

① 接遇面における観光客の満足度向上

リピーターを確保するには、観光客の満足度を高める仕組みづくりが必要です。

観光客満足度等の定期的な把握や、民間事業者に対する観光知識の普及などサービス向上に向けた取組を促進します。

戦略的な取組

◎ 定期的な満足度調査の実施と事業者へのフィードバック

千歳市を訪れる観光客に対して、観光地やサービスに関する満足度等調査を定期的実施し、調査結果を事業者にフィードバックすることにより、サービス内容の改善を促進します。

○ 市内宿泊施設や飲食店等との連携強化

○ 民間事業者を対象とした観光知識の普及

○ イベント参加者などに対するおもてなし意識の向上

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
◎ 定期的な満足度調査の実施と事業者へのフィードバック	行政	◎	
○ 市内宿泊施設や飲食店等との連携強化	協働	○	
○ 民間事業者を対象とした観光知識の普及	協働		○
○ イベント参加者などに対するおもてなし意識の向上	協働	○	

(3) 市民のおもてなし意識の醸成

① 「観光まちづくり」に寄与する人材の育成

観光によるまちづくりを推進するには、市民参加が欠かせないことから、市民の活躍の場の創出と、観光客を温かく迎え入れ、市内観光をサポートする人材の育成を推進します。

戦略的な取組

◎観光ガイドの育成と仕組みづくり

千歳市を訪れる観光客を案内する観光ガイドを育成するため、ガイド研修やマニュアルの作成、観光ガイドが活躍する仕組みづくりなどを検討します。

○清潔で美しい観光地づくり

○千歳の歴史や自然環境について理解を深める制度の検討

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
◎観光ガイドの育成と仕組みづくり	協働	◎	
○清潔で美しい観光地づくり	協働	○	
○千歳の歴史や自然環境について理解を深める制度の検討	協働	○	

(4) 外国人観光客に対応した受入れ体制の整備

①外国人観光客の受入れ体制の整備と利便性の向上

語学・おもてなし研修の開催による外国人対応の強化、看板や通訳体制の整備、海外発行クレジットカードの取扱い店舗の普及促進など、宿泊施設や観光案内所等における外国人観光客の利便性の向上を図ります。

戦略的な取組

◎外国人観光客の受入れ環境の充実に向けた組織づくり

増加傾向にある外国人観光客の受入れ促進に当たり、課題や対応策を検討する場となる組織を設置します。観光に関連する団体や事業者などとの検討の場を設けることにより、効果的な事業を推進します。

- 語学研修や外国人対応セミナーの開催
- PRツールやメニュー表などの多言語化
- 外国人観光客に対応した案内看板等の整備
- 交通機関における多言語案内
- 外国人観光客に対する通訳体制の整備促進
- 海外発行クレジットカード等の利用可能店舗の拡充

②観光案内所での外国語対応の強化（再掲）

今後も増加が予想される外国人観光客に対応するため、各観光案内所における外国語による案内機能を強化します。

- 各観光案内所への外国語対応スタッフの配置（再掲）

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
◎外国人観光客の受入れ環境の充実に向けた組織づくり	協働	◎	
○語学研修や外国人対応セミナーの開催	協働	○	
○PRツールやメニュー表などの多言語化	協働	○	
○外国人観光客に対応した案内看板等の整備	協働	○	
○交通機関における多言語案内	協働	○	
○外国人観光客に対する通訳体制の整備促進	協働	○	
○海外発行クレジットカード等の利用可能店舗の拡充	協働	○	
○各観光案内所への外国語対応スタッフの配置（再掲）	協働	○	

施策の柱4 魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施

観光地としての魅力を高めても、その魅力が観光客に伝わらなければ集客にはつながりません。

施策の柱4「魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施」では、千歳観光の魅力を効果的に伝えるため、パンフレットやDVDなど観光PRツールの充実を図ります。

また、ホームページ・Eメール等を活用したメディア、映画製作会社などへの情報提供や、国内外各地で行われる観光物産展や商談会への参加を促進するなど、様々な場面・手法を活用し関係団体等と連携した継続的な情報発信・提供に努め、観光客の来訪を促します。

【現状と課題】

■情報提供ツールの整備

千歳市には多くの観光資源・施設がありますが、観光客にその魅力が十分に伝わっていません。観光資源・施設の魅力を効果的に伝えるには、パンフレットやホームページを充実させるとともに、写真や映像を積極的に活用したPRを進める必要があります。

■多様な手段による千歳観光のPR

多くの人に千歳観光の魅力を伝えるには、パンフレット類の配布やホームページの活用など従来の取組を継続しながら、様々な場面や手法を用いて情報発信を行っていくことが求められています。今後は、より多くの民間事業者が、国内外の旅行博などに参加する機会を増やすとともに、観光客や市民がブログなどを通して情報発信を行うための環境整備も必要です。

また、映画やドラマ、テレビコマーシャルなどのロケを誘致することは、撮影隊がもたらす経済効果や作品を通じた市のPR効果が期待できます。

ロケ誘致に関する取組としては、道内の自治体などが会員となっているジャパン・フィルムコミッション北海道ブロックを中心に、千歳観光連盟と連携しながら映像製作会社からの問い合わせや相談を始め、関係機関との連絡調整やロケハン同行などの支援を行っていますが、更なるロケ誘致を推進するため、これらの団体と連携を深めるなど現行の体制を強化するとともに、観光ホームページやDVDなどを充実し、積極的な情報提供に努める必要があります。

(1) 情報提供ツールの整備

①観光パンフレット・DVDなどのPRツールの充実

市内の魅力を網羅した観光パンフレット、ホームページ、DVD、観光マップなどのPRツールの充実を図ります。パンフレット等の作成に当たっては、外国人観光客に対応するため多言語化することを基本とします。

戦略的な取組

◎PR用DVDやフォトライブラリーの整備

PR用の動画を集めたDVDや、雑誌社・新聞社等に提供する写真を集めたフォトライブラリーを整備します。PR用のDVDは、観光客向けの映像に加えて、映画などのロケを誘致することを視野に入れた内容で製作します。

○パンフレット類の内容・種類の充実

○市ホームページの内容の充実

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
◎PR用DVDやフォトライブラリーの整備	協働	◎	
○パンフレット類の内容・種類の充実	協働	○	
○市ホームページの内容の充実	行政	○	

(2) 多様な手段による千歳観光のPR

①千歳観光の効果的なPR

観光客の来訪やスポーツ合宿、ロケ誘致を促すため、継続的な情報提供とブログや口コミなど新しいツールを活用した情報発信の促進など、各種媒体を活用したPRに努めます。

また、来訪した観光客の回遊性を高めるため、案内所機能等の充実に努めるとともに、観光客の出発・立寄り地点を活用し、効果的な情報提供を推進します。

○メディアや旅行者、旅行会社などへの継続的な情報発信

○定期的な情報更新と情報提供の工夫

○ブログ、口コミ情報などを活用した情報発信

○イベントなどを活用した情報発信

②誘致宣伝活動の強化

国内外からの誘客を促すため、民間事業者による旅行博及び商談会への参加や、旅行会社・雑誌社等のメディア関係者の招へいなどの誘致宣伝活動を、関係機関・団体と連携し促進します。

戦略的な取組

◎国内外で開催される観光物産展・商談会等参加者への支援

海外を含めた各地で開催される旅行博や商談会、物産展などに関する情報収集を行うとともに、参加する民間事業者を募集するなど、活発な誘致宣伝活動を促進します。

○国内外の旅行会社やメディア関係者の招へい事業の促進

【今後の施策展開】

取組名	想定される実施主体	着手時期	
		前期	後期
○メディアや旅行者、旅行会社などへの継続的な情報発信	協働	○	
○定期的な情報更新と情報提供の工夫	協働	○	
○ブログ、口コミ情報などを活用した情報発信	協働	○	
○イベントなどを活用した情報発信	協働	○	
◎国内外で開催される観光物産展・商談会等参加者への支援	協働	◎	
○国内外の旅行会社やメディア関係者の招へい事業の促進	協働	○	

4. 千歳市観光振興計画の施策一覧表

施策の柱1：支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと情報発信

施策展開	取組名	想定される実施主体			着手時期	
		行政	協働	民間	前期	後期
(1) 支笏湖地区の自然を生かした魅力づくりと環境整備						
①支笏湖地区の自然の魅力を体感する機会の提供	多彩な体験メニューと商品づくり		○		◎	
	四季折々のイベントの魅力拡充とPR			○	○	
	温泉湯めぐり手形の促進			○	○	
②支笏湖地区の地域資源を生かした食の魅力向上	ご当地グルメの定着・普及		○		○	
	ヒメマスなどを活用した食の発掘等		○			○
	支笏湖産ヒメマスのブランド形成			○		○
③支笏湖地区の受入れ体制の充実	地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成		○		◎	
	支笏湖地区の魅力を伝える案内体制の整備		○		◎	
④支笏湖地区の環境整備	新たな泉源開発	○			◎	
	ヒメマスの安定供給に向けた施設の整備	○			◎	
	苔の洞門のあり方の検討		○		○	
	キャンプ場の環境整備	○			○	
	高速通信網の整備促進			○	○	
	解説看板・誘導案内板等の整備	○			○	
	清潔で美しい観光地づくりに向けた美化活動の促進		○		○	
	ポロピナイ園地の整備	○			○	
(2) 千歳観光をけん引する支笏湖地区の効果的な情報発信						
①支笏湖地区の誘致宣伝活動の推進	組織力を生かした誘致宣伝活動の展開		○		◎	
	地元発旅行商品の企画販売等を行う担い手育成（再掲）		○		○	
②支笏湖地区に特化したPRツールの充実	多言語化によるパンフレットの作成		○		○	
	地域をPRするマスコットキャラクターづくり		○		○	

施策の柱 2：観光資源の発掘と有効活用

施策展開	取組名	想定される実施主体			着手時期	
		行政	協働	民間	前期	後期
(1) 観光資源の発掘と魅力増進						
①市街地の空間整備による観光の魅力向上	道の駅の魅力向上	○			◎	
	千歳川の魅力向上と有効活用	○			◎	
②観光資源の発掘と整理・活用	観光資源データベースの構築と活用	○			◎	
	千歳市内外から見た観光資源の発掘と活用		○		○	
(2) 滞在メニューの充実						
①グリーン・ツーリズムの促進	周辺市町村との連携による、農業体験等の受入れ		○		○	
	個人観光客向けサービスの充実			○	○	
	グリーン・ツーリズム連絡協議会との連携		○		○	
	グリーン・ツーリズムの普及啓発		○		○	
②産業観光、エコツーリズム、その他のニューツーリズムの促進	多様化するニューツーリズムに対応するための連携強化		○			○
③コンベンション機能の充実	コンベンションなどの受入れ環境の充実		○		○	
	アフターコンベンションの充実		○			○
(3) 食の魅力づくり						
①地域に根ざした食材やメニューの発掘と活用	千歳ならではの食の発掘とPR		○		◎	
(4) 市内外の観光資源を結ぶ観光ルート・コースづくり						
①市域内の回遊性向上を意識した多彩な観光モデルコースの設定	地元発旅行商品の企画開発に向けた組織づくり		○		◎	
	千歳の歴史やストーリー性に着目した多彩なコースづくり		○		○	
	市街地を散策するコースづくり		○		○	
②交通アクセスや宿泊施設集積などの優位性を生かした広域観光ルートづくり	空港や支笏湖を起点とした広域観光ルートづくり		○		○	
	道内市町村と連携した広域観光への対応		○		○	
③観光資源間の連動性向上	観光資源間の移動の円滑化に向けた取組の促進		○		○	

施策の柱3：観光まちづくりとおもてなし意識の向上

施策展開	取組名	想定される実施主体			着手時期	
		行政	協働	民間	前期	後期
(1) 観光案内機能の強化						
①各地点での情報提供の充実	観光客の出発・立寄り地点における情報提供の充実		○		◎	
②観光案内所での外国語対応の強化	各観光案内所への外国語対応スタッフの配置		○		◎	
(2) 民間事業者のサービス向上						
①接遇面における観光客の満足度向上	定期的な満足度調査の実施と事業者へのフィードバック	○			◎	
	市内宿泊施設や飲食店等との連携強化		○		○	
	民間事業者を対象とした観光知識の普及		○			○
	イベント参加者などに対するおもてなし意識の向上		○		○	
(3) 市民のおもてなし意識の醸成						
①「観光まちづくり」に寄与する人材の育成	観光ガイドの育成と仕組みづくり		○		◎	
	清潔で美しい観光地づくり		○		○	
	千歳の歴史や自然環境について理解を深める制度の検討		○		○	
(4) 外国人観光客に対応した受入れ体制の整備						
①外国人観光客の受入れ体制の整備と利便性の向上	外国人観光客の受入れ環境の充実に向けた組織づくり		○		◎	
	語学研修や外国人対応セミナーの開催		○		○	
	PRツールやメニュー表などの多言語化		○		○	
	外国人観光客に対応した案内看板等の整備		○		○	
	交通機関における多言語案内		○		○	
	外国人観光客に対する通訳体制の整備促進		○		○	
	海外発行クレジットカード等の利用可能店舗の拡充		○		○	
②観光案内所での外国語対応の強化（再掲）	各観光案内所への外国語対応スタッフの配置（再掲）		○		○	

施策の柱4：魅力を効果的に伝える情報発信の継続的な実施

施策展開	取組名	想定される実施主体			着手時期	
		行政	協働	民間	前期	後期
(1) 情報提供ツールの整備						
①観光パンフレット・DVDなどのPRツールの充実	PR用DVDや フォトライブラリーの整備		○		◎	
	パンフレット類の内容・種類の充実		○		○	
	市ホームページの内容の充実	○			○	
(2) 多様な手段による千歳観光のPR						
①千歳観光の効果的なPR	メディアや旅行者、 旅行会社などへの継続的な情報発信		○		○	
	定期的な情報更新と情報提供の工夫		○		○	
	ブログ、口コミ情報などを活用した 情報発信		○		○	
	イベントなどを活用した情報発信		○		○	
②誘致宣伝活動の強化	国内外で開催される観光物産展・ 商談会等参加者への支援		○		◎	
	国内外の旅行会社や メディア関係者の招へい事業の促進		○		○	

資料 千歳市観光振興基本計画策定懇話会

千歳市観光振興基本計画策定懇話会は、計画の策定に当たり、幅広い観点から検討するため民間事業者、有識者、市民等で構成した組織です。

懇話会では、千歳市における観光の現状を把握するとともに、観光振興の目標、方針等を討議し、観光計画の内容について協議を行いました。

検討の結果は、「千歳市観光振興基本計画策定懇話会意見書」として取りまとめ、本計画の内容に反映しています。

(1) 千歳市観光振興基本計画策定懇話会設置要綱

平成21年9月1日

市長 決 裁

千歳市観光振興基本計画策定懇話会設置要綱

(設置)

第1条 (仮称)千歳市観光振興基本計画(以下「観光計画」という。)の策定に当たり、幅広い観点からの検討を行い観光産業従事者、有識者、市民等の意見を観光計画に反映させるため、千歳市観光振興基本計画策定懇話会(以下「懇話会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 懇話会は、千歳市における観光の現状を把握し、観光振興の目標、方針等を討議し、観光計画の内容について協議する。

(組織)

第3条 委員は、次に掲げる者の中から市長が依頼する。

- (1) 観光に関連する事業者、団体又は機関から選出された者
- (2) 学識経験を有する者
- (3) 市民等(市内に通勤又は通学する者を含む。)
- (4) 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

2 委員の定数は、20人以内とする。

3 委員に対する報酬は、支給しない。

(任期)

第4条 委員の任期は、平成22年12月31日までとする。

2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 懇話会に、会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、懇話会を代表し、会務を統括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を

代理する。

(会議)

第6条 懇話会の会議は、事務局が招集し、会長が座長を務める。

2 会長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴き、又は資料の提供を求めることができる。

3 会長が必要と認めるときは、懇話会とは別に、市民からの意見聴取の場を設けることができる。

(専門部会)

第7条 会長は、必要に応じて懇話会に専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、第3条第1項に規定する構成員その他会長が必要と認める者を委員とすることができる。

3 専門部会は、必要に応じて、事務局が招集する。

4 専門部会は、必要に応じて、関係者を招集し意見を聴くことができる。

(事務局)

第8条 懇話会及び専門部会の事務局は、産業振興部観光振興課に置く。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成21年9月1日から施行する。

(2) 千歳市観光振興基本計画策定懇話会委員名簿

(敬称略・五十音順)

氏名	所属等	役職
浅川 和恵	公募	
家藤 喜雄	千歳相互観光バス株式会社 本社営業所	
内田 純一	北海道大学観光学高等研究センター	会長
小柳 重隆	千歳ホテル・旅館業協会 (有限会社ホテル千歳屋)	
加葉田 聡之	道央農業協同組合 千歳支所	
菊地 和宏	北海道旅客鉄道株式会社 千歳駅	
岸田 真知子	株式会社ノース・スター・トラベル	副会長
榊原 達也	社団法人千歳青年会議所 (有限会社さど屋)	
佐々木 智秀	社団法人千歳観光連盟	
佐々木 美津子	千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会	
佐藤 公彦 (平成22年4月～)	北海道中央バス株式会社 千歳営業所	
白石 一人	国立公園支笏湖運営協議会 (支笏湖漁業協同組合)	
高岡 稔	千歳商工会議所 (千歳中小企業相談所)	副会長
谷口 満	千歳市商店街振興組合連合会 (千歳駅前通振興会)	
船木 剛	千歳空港レンタカー連絡協議会 (株式会社日産カーレンタルソリューション)	
星野 一博	公募	
宮本 伸司	千歳工業クラブ (北海道ガス株式会社 千歳支店)	
安田 裕 (～平成22年3月)	北海道中央バス株式会社 千歳営業所	
柳谷 牧子	環境省北海道地方環境事務所支笏湖自然保護官事務所	

(3) 千歳市観光振興基本計画策定懇話会開催経過

回	日時	出席 委員数	主な内容
1	平成21年12月15日	14名	委員就任依頼状交付 会長、副会長の選任 千歳市の観光の現状と課題について 千歳観光が持つ可能性と今後のあるべき姿について
2	平成22年1月22日	14名	観光客アンケート調査の結果について 千歳観光の課題について
3	平成22年2月24日	10名	基本目標について
4	平成22年3月4日	13名	勉強会（講師：日本大学商学部 東 徹 教授）
5	平成22年4月27日	15名	基本目標について（千歳観光への提案）
6	平成22年5月25日	13名	意見書目標案の検討について
7	平成22年6月15日	12名	意見書目標案の修正について キャッチフレーズ（案）について
8	平成22年6月29日	10名	キャッチフレーズの選定について 意見書の確定について
9	平成22年12月21日	11名	千歳市観光振興計画（素案）について

※平成22年7月12日に「千歳市観光振興基本計画策定に係る意見書」を市長に提出。

千歳市観光振興計画

空が結ぶまち千歳・水が繋ぐまち千歳

～豊かな自然（水・緑・温泉）と交通アクセスを生かした観光地づくり～

平成23年3月発行

発行 北海道千歳市
〒066-8686 千歳市東雲町2丁目34番地

編集 千歳市産業振興部観光振興課
電話 0123-24-0377

千歳市観光振興計画

平成23年度～平成32年度

